

**【山形県】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県
担当課名	教育局スポーツ保健課
電話番号	023-630-2894

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	1,026,228人	部活動数	984部活
市区町村数	13市19町3村	都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校数	95校	都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済
公立中学校生徒数	26,213人		

実証事業に参加した市区町村数	10市12町1村

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

R 5 年度までの県の主な取り組み

見えてきた課題（状況調査・ヒアリングより）

R2 ・検討委員会の設置（R2～）

R3

R4

R5

- ・実践研究（国委託事業）R3～R4（10校）
- ・説明会の実施

- ・部活動改革リーフレット（R4.3）
- ・部活動改革説明動画（R4.5）
- ・市町村担当課長会議の開催（R4.9）

- ・山形県における部活動改革のガイドライン（R5.3）
- ・人材バンクのシステム改修
- ・地域スポーツクラブ活動体制整備事業
- ・各市町村に対する部活動改革の実態調査（R5.9）

- ① 地域展開に向けた具体的なイメージを主導してまとめ上げる人材の確保
・関係団体との連絡調整 ・実態調査 ・関係者への説明 等
- ② 単独市町村での地域展開が困難なため市町村を越えた広域的な取組みの実施
・チーム編成における人数不足 ・移動手段の確保 等
- ③ 受け皿の形態（クラブ、スポ少、保護者会等）問わず必要となる指導者の確保
・指導者の資質向上 ・指導者の掘り起こし 等

R 5 年度 市町村実証事業の状況（好事例）

山形市【受け皿の形態】競技団体、地域学校協働活動本部など

- ・山形六中ほか7校で複数部の休日の活動を10月からクラブ化
- ・現在部活動種目にない競技（クライミングなど）を実施
- ・複数学校が参加する合同活動（なぎなたなど）を実施
- ・地域学校協働活動本部との連携事業を展開

酒田市【受け皿の形態】総合型地域スポーツクラブ

- ・市内3校で約30部の休日の活動をクラブ化
→R7年度はほぼ全て（約80部）をクラブ化する予定

三川町【受け皿の形態】地域クラブなど

- ・町が協議会を設立し、コーディネーター業務も担っている
- ・地域クラブを新設し10部活中9部活を地域へ展開

R 5 年度 「市町村における部活動改革に関する状況調査」（R5.10実施）回答結果より

広域的な取組みを希望する市町村数希望する市町村数 23市町村のうち16町村が1自治体1中学校

東南村山（1 / 5）中山町

西村山（5 / 5）寒河江市・河北町・西川町・朝日町・大江町

北村山（4 / 4）村山市・東根市・尾花沢市・大石田町

コーディネーター配置市町村数

R5（19 / 35）

R6（29 / 35）

最上（5 / 8）金山町・最上町・舟形町・真室川町・鮭川村

置賜（3 / 8）川西町・白鷹町・飯豊町

庄内（5 / 5）鶴岡市・庄内町・三川町・酒田市・遊佐町

部活動改革ガイドライン策定（予定）市町村数

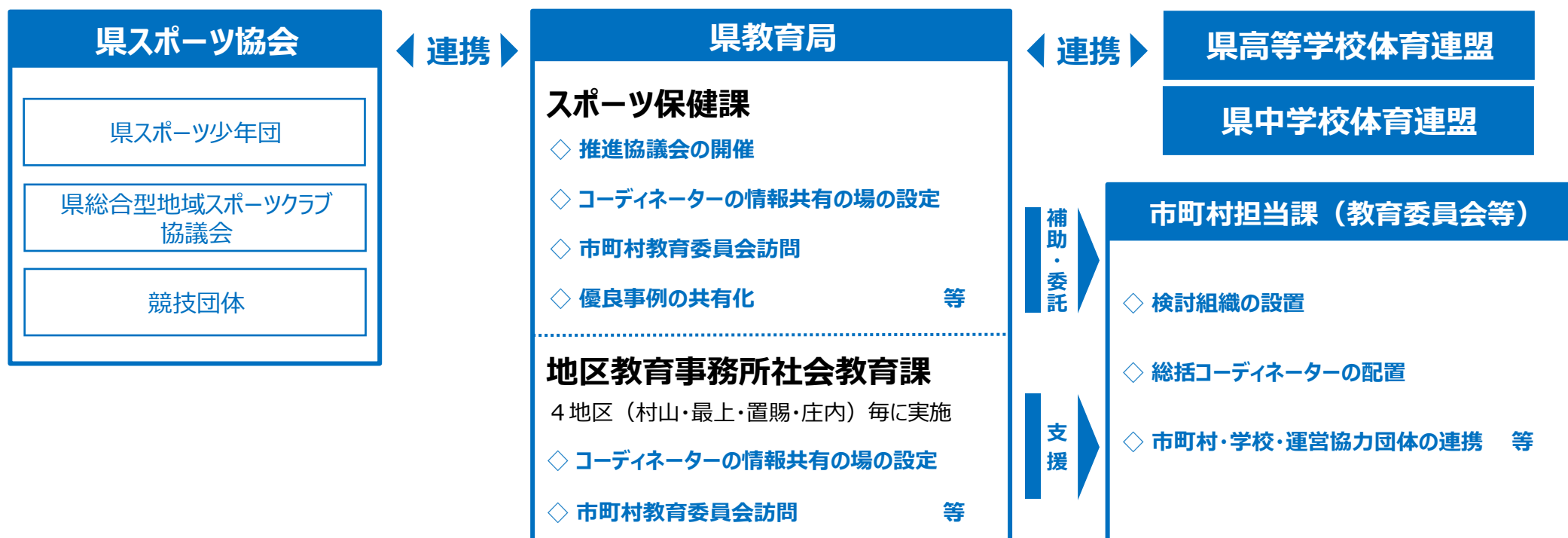
R5（11 / 35）

R6～（27 / 35）

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼事業実施体制図（都道府県と市区町村における推進体制図）



年間の事業スケジュール

取組み 対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ガイドラインの周知		市町村担当課長会議	ガイドラインの周知（校長会・各関係団体諸会議 等）									
委託事業の推進			コーディネーターの配置				進捗確認① 状況調査			推進協議会	進捗確認② 状況調査	
諸課題への対応			広域的な取組みの場の設定・優良事例の共有化					県 コーディネーター情報共有	地区 コーディネーター情報共有	県 コーディネーター情報共有		
			市町村担当課訪問									

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

希望する市町村に総括コーディネーターを配置し、運動部活動の地域移行を円滑に進めるためスポーツ関係団体や市町村との連絡調整、指導助言を行う。

取組の 成果

【コーディネーターの配置】 19 / 35 市町村（本事業を活用して配置した市町村数：18 自主財源等で配置した市町村数：1）

○コーディネーターを各市町村に配置することで、地域スポーツ活動の体制整備が推進された。

〈具体的な事例〉

- ・コーディネーター（元校長）が学校や関連する団体、保護者に直接説明を行ったことで、改革の内容や目的の理解が深まった。
- ・学校やクラブの実態を把握し、データを集約して分析することで、現状の課題や必要な改善点を明らかになった。
これにより、効果的な施策の策定と実行が可能となった。
- ・市町村内の関係団体を集めて話し合う場が設定されたことで、コミュニケーションの促進や意思疎通が図られた。

【各市町村への訪問（ヒアリング・説明）の実施】 訪問した市町村 14 / 35

○各市町村で開催された説明会において、県担当者が県の方針や他市町村の実践例を紹介することで、改革の内容や目的について理解を深めることができた。また、各地域での共通の課題や独自の課題を把握することができた。

特に 工夫した 事項

【コーディネーター情報交換会の実施】 県単位：1回 4地区：各1～2回

○コーディネーター同士が情報を交換し、各地域の取り組みを共有することで、他の地域で成功した施策やアプローチを学び、自らの地域での活動に活かす機会が生まれた。

今後の 課題と 対応方針

- 市町村で改革を中心となって進める人材の育成 → 事業担当者やコーディネーターに向けワークショップの開催
- 市町村を超えた取組の実施 → 県コーディネーターの配置
- 先進事例の紹介、各市町村の課題解決に向けた指導助言 → 県コーディネーターの配置

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

人材バンクの改修を図り、指導者情報の提供を行う。

取組の 成果

【人材バンクシステムの使いやすさや機能性の向上】

○利用者からのフィードバックを受け、それを基に従来のページのデザインや機能を一新することで、システムの使いやすさや機能性を向上させることができた。

【指導者の登録方法の効率化】

〈従来の登録方法〉

- ①登録希望者が紙面又はメールで各地区教育事務所へ申請書を提出
- ②各地区教育事務所が登録希望者へヒアリング
- ③各地区教育事務所が指導者情報をシステムへ登録
- ④承認

〈従来の登録方法〉

- ①登録希望者がシステムへ直接登録
- ②承認



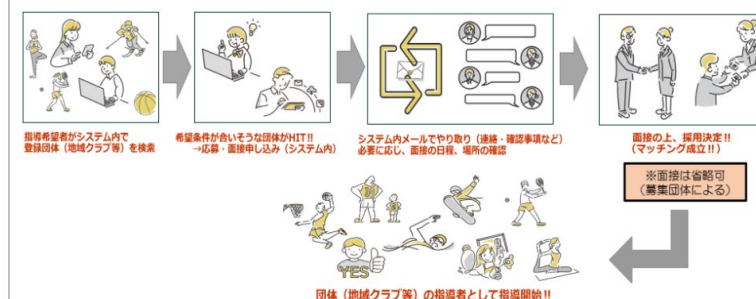
《リーダーバンクやまがた》

特に 工夫した 事項

【機能の拡充】

- ①【利用者】 指導者をさがす団体の登録
(指導者側からの団体の検索、申請が可能)
- ②【利用者】 団体が主催する大会・イベントなどのボランティア・サポーターの募集
- ③【利用者】 フォームメール機能によるシステム上でのマッチング
- ④【管理者】 システム内でのマニュアル等の閲覧
- ⑤【管理者】 登録者情報の一括出力

【指導希望者が求人団体が登録した求人票を探す】



今後の 課題と 対応方針

- 登録者（団体）の増加 → 県スポーツ協会と連携（JSPO公認指導者等への登録推奨）
- リーダーバンクやまがたの認知度向上 → 関係団体・学校・保護者・市町村等への周知活動

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

人材バンクへの指導者数増加に向けて、県内大学や競技団体に協力を依頼し登録を促す。

取組の 成果

【学生指導者についての現状と課題の把握】

○昨年度より、県内大学に対して人材バンクへの指導者登録の協力を依頼していたが、登録者数の増加につなげることが難しかった。

〈主な現状と課題〉

- ・総合型地域スポーツクラブと連携している大学はあるが、中学生を対象としていない活動もあり、両立することが困難。
- ・競技団体やクラブが主催する中学生を対象とした活動で、アシスタントコーチとしてかかわっている場合はあるが、メイン指導者として人材バンクへ登録するまでに至らない。

【指導者の育成・発掘についての理解促進】

○生徒たちの多様なニーズ（これまで地域になかった種目の活動や競技力・志向に応じた活動など）に対応するためには、現在指導している指導者だけでは数が不足している現状について、県総合型地域スポーツクラブ協議会や県スポーツ推進委員協議会と情報交換し、指導者の発掘・育成の重要性について理解を深めた。

特に 工夫した 事項

【人材バンクシステムの改修】

○システムの改修を行い、使いやすさや機能性の向上、指導者の登録方法の効率化により、システムの活用促進と登録者の増加を実現できるようにした。

今後の 課題と 対応方針

- 登録者（団体）の増加 → 県スポーツ協会と連携（JSPO公認指導者等への登録推奨）
- リーダーバンクやまがたの認知度向上 → 関係団体・学校・保護者・市町村等への周知活動
- 指導者の発掘・育成 → 県スポーツ協会と連携（地域クラブ指導者等研修会を4地区で開催）
- 大学生の活躍の場の拡大 → 人材バンクへの指導者登録以外の活躍の場の検討

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

希望する市町村に対し、県内各地区教育事務所を中心に、市町村を越えた広域的な連携について協議する場を設定する。

取組の成果

【コーディネーター情報交換会の実施】 県単位：1回 4地区：各1～2回

○コーディネーター同士が情報を交換し、各地域の取り組みを共有することで、他の地域で成功した施策やアプローチを学び、自らの地域での活動に活かす機会が生まれた。

〈情報交換会での主な話題〉

・コーディネーター業務の内容について

①ニーズ調査 ②ロードマップの作成 ③関係団体が情報共有する場の創出 等

・発掘・育成が必要とされる主な人材について

①コーディネーター ②指導者 ③運営団体（受皿団体）等

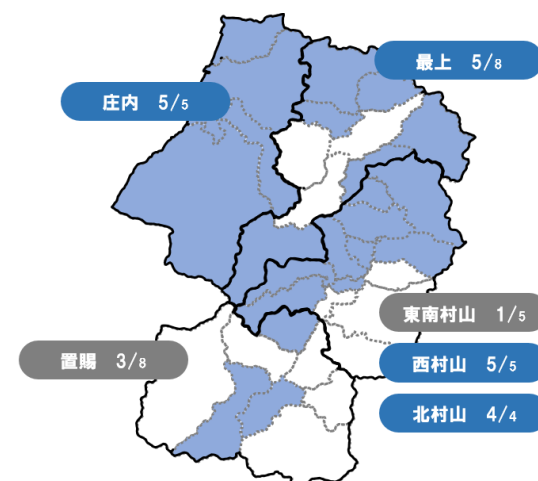
・各種人材を発掘・育成する仕組みづくりについて

①指導者育成研修会の実施 ②各市町村での人材バンクの設置や活用 等

・広域的な取組の必要性について

①生徒数の減少により単独での活動が困難 ②市町村を超えた基準等の検討 等

広域的な取組を希望する市町村数希望する市町村数



23市町村のうち16町村が1自治体1中学校

特に工夫した事項

【4地区での情報交換会の開催】

○11月に県内全市町村を対象にしたオンラインでの情報交換会を開催した後、4地区において参集型の情報交換会を開催することで、効果的に情報を共有することができた。

今後の課題と対応方針

- 単独市町村では実施が困難な課題の解決 → 県コーディネーターの配置（市町村を越えて連携調整する場の設定）
- 複数市町村での共通した課題の解決 → 県コーディネーターの配置（市町村を越えて連携調整する場の設定）
- 市町村を超えた新たなスポーツ環境の創出 → 県コーディネーターの配置（市町村を越えて連携調整する場の設定）

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

経費負担の在り方について、市町村教育委員会を通して調査を行う。

取組の成果

【経費負担の在り方についての実態把握】 困窮世帯への支援を実施している市町村数 4 / 35

○部活動改革について、県内全市町村に実態調査を行ったが、経費負担について既に実施している市町村数は4市町村であった。地域スポーツクラブ活動の受益者負担の金額については、現在部活動で保護者が負担している金額を参考に検討している。

【県立高等学校体育施設の使用料減免に向けての関係規則の改正】

○これまで県立高等学校体育施設の使用料は、市町村公立学校の体育施設の使用料よりも高額であったが、令和6年度より中学生が所属している団体に対して使用料の8割減免措置が可能になった。

〈令和5年度県立高等学校体育施設の開放状況〉

- ・県立高等学校体育施設開放校 22 / 42校
- ・利用団体 25団体（うち中学生所属団体16団体）
- ・開放施設：グラウンド・体育館・柔道場・剣道場
柔剣道場・相撲場・テニスコート・プール

山形県学校施設使用料条例（昭和39年10月 県条例第71号）令和5年3月現在

区 分		使 用 料 の 額	
体 育 館 柔 剣 道 場 講 堂 会 議 室	330平方メートル未満		950円
	330平方メートル以上		1,920円
	660平方メートル未満		
	660平方メートル以上		3,860円
	990平方メートル未満		
	990平方メートル以上		5,800円
教 室	1 室		340円
弓 道 場 相 撲 場			950円
屋外運動場	グラウンド		1,920円
	テニスコート	1 面	590円
プ ー ル			1,920円
宿 泊 施 設	宿泊を伴わない場合	1 室	340円
	宿泊を伴う場合		700円

特に工夫した事項

【実態調査の効率化】

○実態調査の実施については、WEB上でのフォーム入力を活用することで業務の効率化を図った。

今後の課題と対応方針

- 経費負担の在り方についての情報収集 → 実態把握調査の実施 ・ 実証事業における収支構造の検証
- 県立高等学校の体育施設の利便性 → 使用料減免の実施 ・ 体育施設開放事業の周知

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

令和5年度山形県部活動改革推進協議会

令和6年2月16日(金)
14時00分～16時00分
場所：あこや会館ホール

次 第

開 会

1 あいさつ

2 本会の趣旨

3 報告

(1) 山形県・市町村の進捗状況について <資料1>

(2) 事例紹介（コーディネーター事例紹介）
（酒田市総括コーディネーター 高橋 健 氏） <資料2>

4 協議

(1) 令和6年度以降の部活動改革について <資料3>

(2) 「山形県における学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針（仮称）」の策定について
<資料4>

5 その他

閉 会

2/16部活動改革推進協議会資料（次第）

令和5年度 山形県における部活動改革について

～「生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境の構築」と「教員の働き方改革の推進」の両立を目指して～

資料1

県教育委員会 取組み	1. 部活動改革ガイドライン 周知、取組みへの指導助言	2. スポーツ庁・文化庁委託事業 の推進	3. 改革の諸課題への対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村担当課長会議（R5.5） ・校長会等諸会議説明 ・各関係団体へ説明（14回） ・市町村訪問（18回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証事業活用 （スポーツ23市町村・文化3市町村） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター情報交換会 県単位：R5.11 事務所単位：村山R6.1、最上R5.12 置賜R5.12、庄内R5.12 ・山形県部活動改革推進協議会（R6.2.16開催）

1. 中学校における部活動改革進捗状況

（「市町村における部活動改革に関する状況調査」（R5.12）「部活動方針フォローアップ調査」（R5.10）より）

（1）休日に地域移行が進んでいる部活動数（運動部） 328/984部

<受け皿となる団体の内訳>

スポ少	59部	総合型クラブ	73部	単一種目クラブ	30部	民間クラブ	12部
競技団体	19部	スポーツ協会	1部	プロチーム	0部	大 学	0部
地域協働活動本部	0部	同窓会	0部	保護者会で設立	112部	個人に任せている	22部

（2）休日に地域移行が進んでいる部活動数（文化部） 60/193部

<受け皿となる団体の内訳>

文化芸術団体	1部	総合型クラブ	2部	民間クラブ	0部	大 学	0部
地域協働活動本部	0部	同窓会	0部	保護者会で設立	12部	単一種目クラブ	1部
個人に任せている	44部						

（3）検討組織の設置・実施状況

（4）コーディネーター配置市町村

設置：35/35市町村 実施済み：35/35市町村

19/35市町村

（5）部活動の任意加入制

（6）兼職兼業している教員数

中学校 63/95校（R4:42/95校）

運動部顧問14名 文化部顧問1名

（7）広域的な取組みの必要性を感じている市町村

東南村山(3/5)	西村山(5/5)	北村山(4/4)	最上(8/8)	置賜(3/8)	庄内(5/5)
-----------	----------	----------	---------	---------	---------

2. 市町村における実証事業の取組み

（1）主な取組み

【山形市】

多様な地域クラブ活動の在り方を検討・実施

- ・競技団体が運営主体で、複数の生徒が参加するクラブ活動
- ・学校部活動にはない種目のクラブ新規立上げ

【酒田市】

総合型地域スポーツクラブと連携

- ・3/7学校、多くの部活動が、休日は総合型地域スポーツクラブで活動
- ・市教育委員会が、サポーターバンクを設置

【鶴岡市】

全中学校が部活動は平日のみ、休日は地域クラブ活動

- ・市内にある総合型クラブ（7/10クラブ）と連携
- ・R5～R7の改革推進期間で、現在保護者会練習をしている団体を、クラブへ体制整備する

【三川町】

町がスポーツ文化振興協議会を設立

- ・町が協議会を設立し、コーディネーター業務を担っている
- ・協議会の中で地域クラブを新設

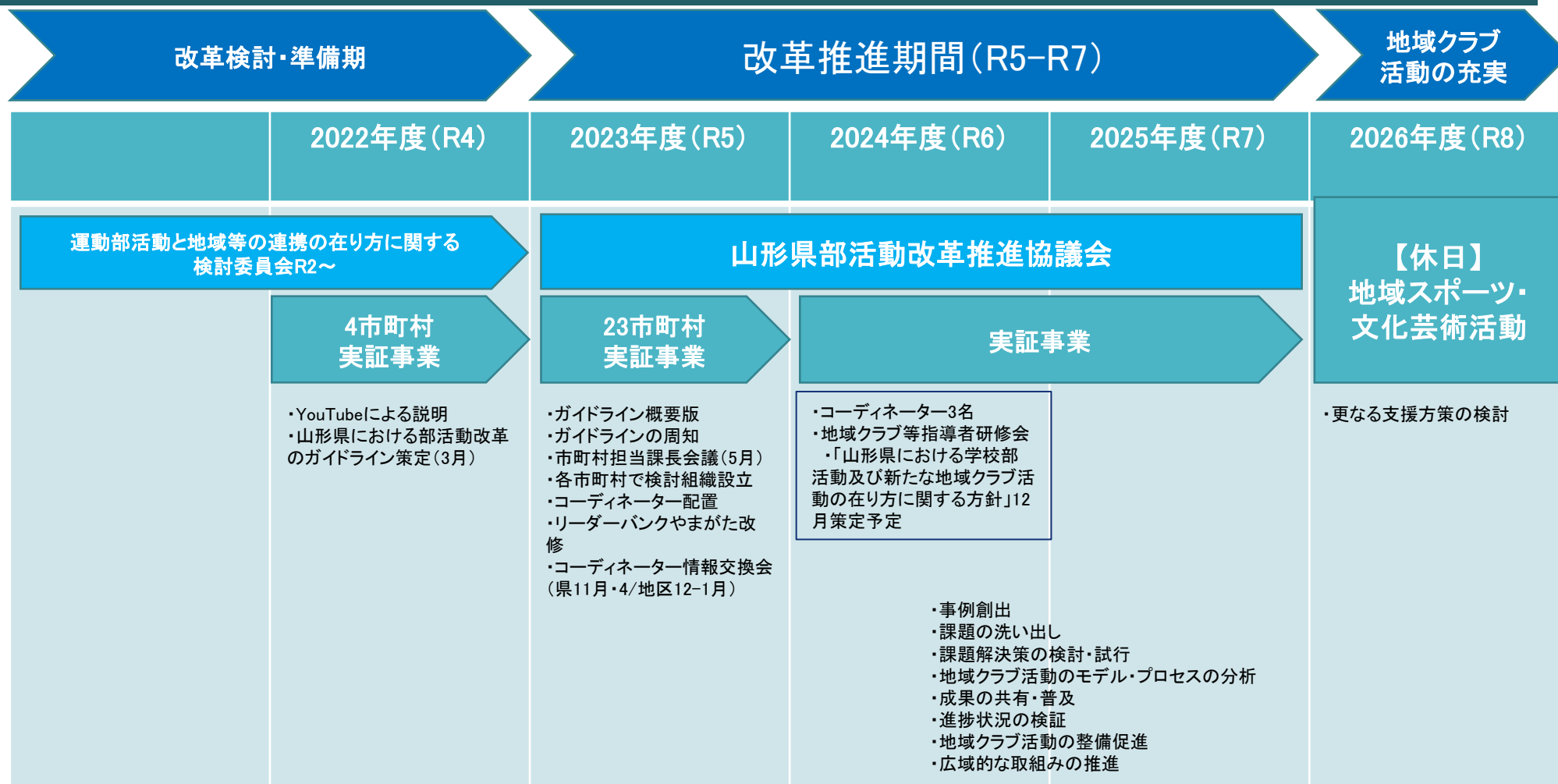
2/16部活動改革推進協議会資料<資料1>

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

地域クラブ活動体制整備事業(今後の方向性)

山形県部活動改革推進に向けたロードマップ



**【山形県山形市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県山形市
担当課名	企画調整部スポーツ課
電話番号	023-641-1212

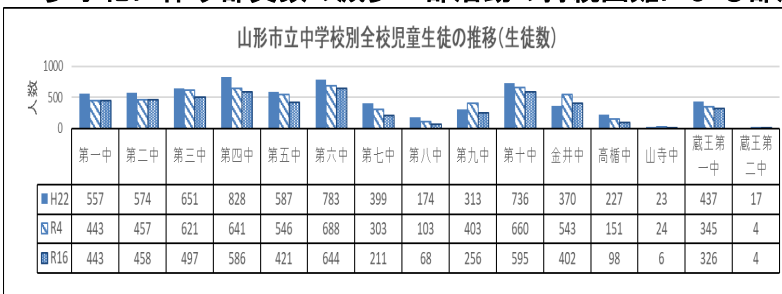
1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	242,924人	部活動数	183部活
公立中学校数	15校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	5,845人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

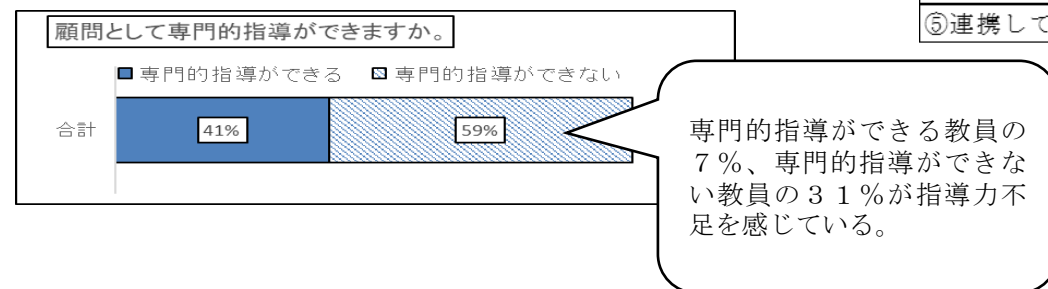
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1. 少子化に伴う部員数の減少⇒部活動の持続困難による部活動数減少



2. 専門的指導ができる教員の不足

⇒生徒にとって望ましい指導を受けられないなどの影響



3. 多くの教員にとって部活動が負担⇒学級経営等への影響

- ・教員の30%が時間外勤務の要因に部活動を挙げている。
- ・教員の14%が部活動指導のため学級経営や教材研究等の時間がとれないと感じている。

4. 地域のスポーツおよび文化芸術団体等と学校との連携・協働が十分ではない

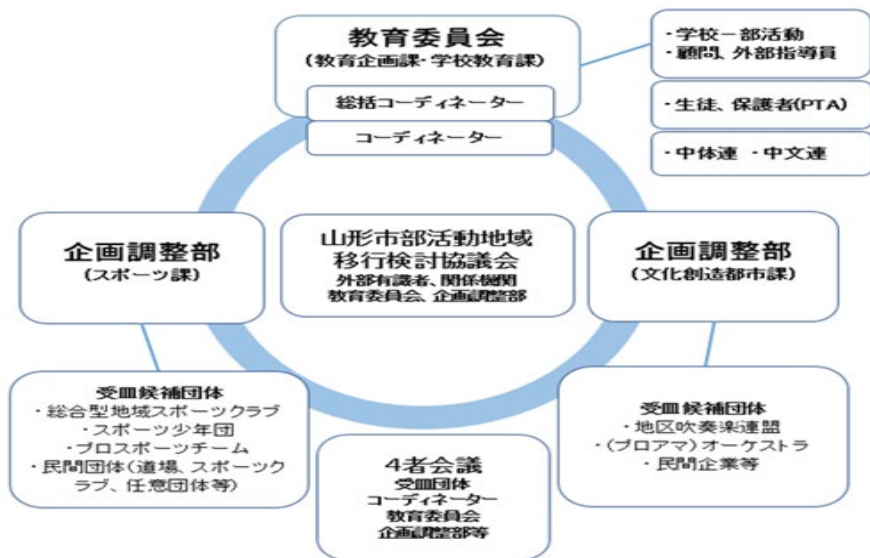
他の団体と連携している部活動の割合	
①総合型地域スポーツクラブ	1%
②地域(民間)のスポーツクラブ(単独種目)	17%
③スポーツ少年団	4%
④保護者会主催のクラブ	18%
⑤連携していない	59%

※令和3年度 山形県運動部活動に関する実態調査(山形市立学校集計結果)

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（学校教育課）

学校、部活動、顧問、部活動外部指導、生徒、保護者との調整及び広報。

部活動地域移行への統括事務
運営協議会等の運営

● 首長部局（スポーツ課）

部活動地域移行への受け皿団体の発掘
受け皿団体の運営補助及び助言
受皿団体と教育委員会との調整

年間の事業スケジュール

令和5年度 山形市部活動地域移行スケジュール

取組内容・スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
関係会議について 1) 作業部会 2) 検討協議会		<input type="checkbox"/> 校長会への報告準備 ・進捗状況について ・各種調査等の内容について <input type="checkbox"/> 中体連専門部、中文連への意見聴取準備 <input type="checkbox"/> 庁内（事務局）検討会 ・検討協議会設置要綱案	<input type="checkbox"/> 校長会への報告 ・進捗状況について ・検討協議会設置要綱案（案）の検討 ・C Dの配置について	◆検討協議会① ・組織体制 ・スケジュール ・受け皿団体とテスト事業 ・ニーズ調査内容 ・ガイドライン骨子案	・テスト事業に向けた準備 ・ニーズ調査の結果 ・テスト事業について <input type="checkbox"/> 受皿団体・競技団体説明会 <input type="checkbox"/> 庁内（事務局）検討会 ・ヒアリングの整理 ・テスト事業準備	<input type="checkbox"/> 庁内（事務局） ・テスト事業準備	<input type="checkbox"/> 庁内（事務局）検討会 ・PTA連合会議（事業内容の説明）準備	<input type="checkbox"/> 庁内（事務局） ・受皿団体・競技団体との調整 ・テスト事業状況把握 ・検討協議会準備 ◇打合せ会 ・テスト事業の状況把握	<input type="checkbox"/> スポーツ少年団への説明会 ・テスト事業状況把握 ・検討協議会準備 ◇作業部会⑤ ・テスト事業の状況報告と課題の把握 ・第2回検討委員会に向けた協議内容の整理	・テスト事業について ・ガイドライン策定 ・次年度以降の移行推進計画（方針）検討 ・課題検討（送迎・費用） ・事業の試験運用（一部）についての検討 <input type="checkbox"/> ヒアリングの実施 ・関係団体、保護者、受皿団体、競技団体等 <input type="checkbox"/> 庁内（事務局）検討会 ・ヒアリングの整理	・第2回検討協議会に向けた協議内容の整理 ニーズ調査開始 ◆検討協議会② ・次年度に向けた課題整理 ・報告書の整理	
受け皿団体について				<input type="checkbox"/> 検討協議会への報告 ・スポーツ10（予定） ※最大数							<input type="checkbox"/> 各団体へのアンケート調査	
モデル事業	<input type="checkbox"/> 情報の整理 （学教、スガ、文化）	<input type="checkbox"/> テスト事業への参加受皿団体の調査			<input type="checkbox"/> 具体的な事業内容整理		<input type="checkbox"/> 保護者説明会 <input type="checkbox"/> 受皿団体への説明会 ●モデル事業開始 1件	モデル事業6件開始	モデル事業2件開始	<input type="checkbox"/> 四者協議の開催	<input type="checkbox"/> 課題の整理 <input type="checkbox"/> 実施後アンケート	

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

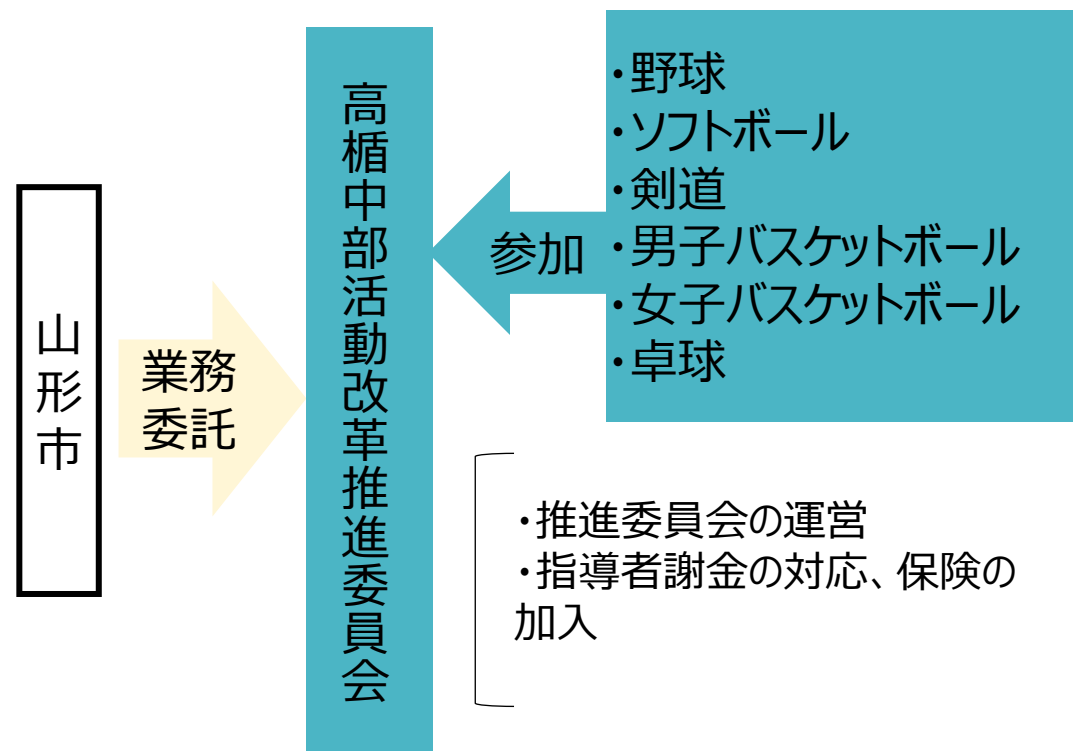
拠点校数	6校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	男子バスケットボール、女子バスケットボール、野球、ソフトボール、剣道、卓球、なぎなた、バレーボール、ラグビー
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	10部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	高楯中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	6部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球、ソフトボール、男子バスケットボール、女子バスケットボール、卓球、剣道
運営主体名	高楯中部活動改革推進委員会
運営類型	その他（その他の類型）
1か月あたりの平均的な活動回数	卓球：月2回程度 野球：月2回程度
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	中学校体育館、地域コミュニティセンター
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	今年度は寄附
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

検討協議会の設置に加え、コーディネーターの設置、4 者会議の開催などにより、関係団体との調整や運営団体・実施団体の体制整備・相談体制を図る。

取組の成果

- ・令和 5 年 7 月に検討協議会を立ち上げた。
- ・高楯中部活動改革推進委員会の立上げにあたり、コーディネーター（スポーツ担当）及びスポーツ課職員、教育委員会学校教育課職員と密に連絡を取り合い、助言指導を行っている。
- ・なぎなた連盟内の中学校部活動地域移行の運営についても助言を行った。
- ・山形市スケートボード協会へは、スポーツ課職員が運営についての助言を行った。
- ・高楯中部活動改革推進委員会、なぎなた連盟、山形市スケートボード協会等への助言により、各団体において部活動の地域連携を実施するにあたり、話し合いを重ねた結果スムーズな連携につながり、生徒の満足度も高くなった。

特に工夫した事項

- ・学校及びスポーツ団体と連携を図るため、学校長経験者でありスポーツ団体と関わりが深い人物を総括コーディネーター及びコーディネーターに任命した。

今後の課題と対応方針

今年は、モデル事業ということで期間が短い中で行った。そのため、各受託団体と緊密な連絡がとれた団体、とれなかった団体と温度差があった。そのため、市と受託団体が連携していくために、長いスパンで事業を考え、市、受託団体、学校、生徒、保護者との信頼関係を醸成するための努力が必要だ。

次年度に向け、山形市、生徒、保護者、学校、受託団体が連携しながら、解決策を模索していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

指導する団体や人材の発掘を行い、マッチングを進めるとともに、新たな研修や資格設定などを検討する

取組の成果

指導する人材として、山形県なぎなた連盟、山形県ラグビーフットボール協会、山形市スケートボード協会等の団体に指導をお願いする事により、指導者の質及び量の確保が図れた。

地域クラブとして、高楯地区からお願いできる指導者を探した。

特に、バスケットボールと野球は、一から指導者を探し、男女1名ずつの指導者をお願いすることができた。

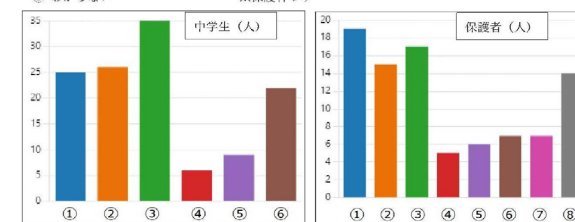
今回のモデル事業については地区内の方々からの繋がりをとおして、探し出すことができた。

高楯中部活動改革推進委員会が独自に行った、アンケートの結果として参加した中学生79人のうち、33%の生徒が「専門的な指導を受ける事ができた」、27%の生徒が「活動が充実できた」と回答している。

5.高楯地区休日の部活動の地域移行の試行について、よかったと思うことは何ですか。【複数回答可】

※該当する選択肢がない場合は、選択する必要はありません。また、選択肢にないことは7・8に記述してください。

- ① 高楯地区で活動できたこと。
- ② 専門的な指導を受けることができたこと。
- ③ 高楯中の部活動の仲間と一緒に活動できたこと。
- ④ 入団費や月謝代がかからなかったこと。
- ⑤ 保護者の負担（送迎や当番など）が少なかったこと。
- ⑥ 活動が充実していたこと。
- ⑦ 先生方の負担がなかったこと。
- ⑧ わからない



高楯中部活動改革推進委員会アンケートより

特に工夫した事項

学校単体で全体の部活動を行うため、地域内での指導者の依頼を行ったことにより、地区内に指導者と成りえる人材の情報に繋がることができた。今後も、指導者確保のために繋がりを維持して行く。

今後の課題と対応方針

今後の課題として、どの競技においても指導者数の少なさがあげられた。

また、協会等に所属していない指導者などの発掘も必要だと感じた。

日頃からの地域との情報交換が必要であると感じられた。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ団体に加え、プロスポーツ、高校・大学、企業など様々な団体と実施可能な連携方法について協議を行う。また、実施場所への移動手段の確保など、山形市の地域公共交通計画と併せて検討していく。

取組の成果

山大クラブJrとの連携により、山形大学女子バレーボール部員の協力を得て、中学生向け指導を行った。

特に工夫した事項

大きな組織ではない競技団体と密に連絡を取りながら事業を行う事ができた。
山形大学女子バレーボール部との連携を図ることができた。

今後の課題と対応方針

関係団体と実現可能な実施方法や、やり方次第での実施方法など、見えない部分が様々出てきた。
山形大学女子バスケットボール部との連携については、今後も実施していきたいが体育館の確保が課題となっている。
今後の課題として、実施場所の課題、部活動指導員との関係等が見てきた。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

複数校の部活動統合や市町村をまたいだ活動などについてあり方を検討する。

取組の 成果

- ・令和5年度については、なぎなた部を合同で活動に取り組むことができた。また、バレーボールについても、市内複数校、市町村をまたいだ学校からの活動がみられた。
- ・なぎなた部においては、山形市内のなぎなた部がある4校を2ずつに分け取り組み、専門的な指導を受ける事ができた。

特に 工夫した 事項

面的、広域的な取組は、まだまだこれから進めなくてはならない。
様々な事例を今後の参考にしていきたい。

今後の 課題と 対応方針

今後は、生徒がやりたい部活動を行うために複数校合同や、統合、市町村をまたいだ活動などについて、様々な機会をとらえて、調査研究を行っていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

既存の部活動にない種目やレクリエーション的活動についても体験できる機会を創出できるように検討を行う。

取組の成果

既存の部活動にはない、スケートボード、ボルダリング、ハンドボールを実施することができた。
ボルダリング等、部活動にないスポーツについては、市内に配付したチラシにより多くの生徒、児童の目に入ることにより、体験等の子どもたちが増えたようだ。

特に工夫した事項

既存の部活動では、行っていないスケートボード、ボルダリング等の体験を通して、広くスポーツに触れる機会を実施した。

今後の課題と対応方針

児童、生徒へのニーズ調査により、多様な競技に触れる機会を増やしていきたい。
来年度は、現在の10部活から20部活へと実証事業の数を増やしていく。
現在、スポーツ少年団及びスポーツ団体等の受託者になりえる団体にもうけてアンケート調査を行っている。アンケート調査の結果をうけて問題点を洗い出し実証事業への参加団体の増加に繋げ、受託団体の多様化にも取り組んでいく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

実証事業を踏まえ、徴収金額の必要性や額について検証し支援の検討を行う。

取組の 成果

持続可能な地域クラブへの移行、連携のために参加料の徴収が必要な旨、1部活動の保護者説明において、説明し了承を得た。

特に 工夫した 事項

徴収金額については、部活動の無料からの移行のため、少額（500円）から始める工夫を行った。

今後の 課題と 対応方針

徴収金額の必要性や額については、山形市全体のニーズ調査の結果も踏まえながら、今後も検討していく。
参加費用の徴収額、支援等は今後も課題の一つとして検討していく。
また、送迎についても費用負担支援の一つとして検討していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

現在も学校開放は行っており、その使用を前提として実証事業を実施し、問題等ないか検証していく。

取組の 成果

学校施設の開放については、現在も学校施設運営協議会等で各学校でクラブ活動等に使用させている。
クラブによっては、学校を使用する際の鍵の貸し借りをなくすための工夫を行ったところもあった。

特に 工夫した 事項

学校施設の活用については、まだまだ緒に就いたばかりであるため、様々な事例を今後の参考にしていきたい。

今後の 課題と 対応方針

学校施設運営協議会等、地域との連携により学校施設の利用に繋がっていくため、今後も検証していく。

2. 実証内容と成果

参考資料（部活動の地域移行に向けたチラシ）

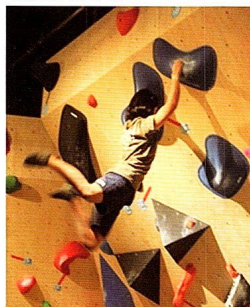


地域スポーツクラブ活動体制整備事業

中学生のみなさん、体験してみませんか？

山形市では、部活動が地域と連携して取り組める形を模索しており、モデル事業を始めました。
「経験したことのない競技にチャレンジしたい」「部活動でやっているけど、もっと上手になりたい」「他のスポーツを経験して、総合的に体力や筋力など高めていきたい」など中学生のみなさんの興味に応じて次の通り募集します。
興味のある方は、それぞれの競技の問い合わせ先や申込方法（2次元コード）により、申込むことができます。
※令和5年度のモデル事業は、令和6年1月末までとなっています。

ボルダリング



◎FLAT BOULDERING
日時：毎週土曜日 定員10名
18:00～21:00
利用料：1回1,000円
レンタルシューズ代:330円 レンタルチョーク代：110円
(お問い合わせ)
990-0821 山形市北町2-1-30 FLAT BOULDERING
023-682-6760 ☞ kosukeflatbouldering@gmail.com



◎BOULDERING HOUSE 358
日時：毎週土曜日 16:00～19:00
(レッスンは16:00～17:00)
利用料：8500円
(シューズ代、いつでも利用可のフリーパス込み、半額助成あり)
(お問い合わせ)
990-0812 山形市千歳1-15-43 BOULDERING HOUSE 358
090-2982-7498 ☞ bouldering.house.358@gmail.com



スケートボード

◎山形市スケートボード協会
日時：毎週土曜日又は日曜日
場所：山形県・宮城県・新潟県内の屋内施設
(現地集合現地解散となります)
会費：1,450円ほか施設使用料
(お問い合わせ)
山形市スケートボード協会 佐藤
☞ yamagataskateboardassociation@gmail.com



ハンドボール



◎HC山形
日時：毎週水・土・日曜日
(火・木は自主練習、ただし第2・4木曜は南山形小学校)
場所：山形五中体育館・南山形小学校・市内体育館等
会費:1ヶ月 3,000円 (遠征費等は別途集金)
(お問い合わせ)
チームHP: <https://yosukehandball.wixsite.com/hcyamagata>
富樫 陽介 090-7939-5434
☞ yosukehandball@yahoo.co.jp

▼▼裏面に続く▼▼

バレーボール



◎山大クラブJr.
対象：村山地区 中学男子・女子生徒1～3年生 (定員40名程度)
バレー部への所属は問わない
日時：原則 毎週土曜日 (月3～4回) 17:30～20:00
場所：山形中央高校第一体育館 (山形市鉄砲町2-10-73)
会費：6ヶ月 9,000円 (前期4～9月、後期10～3月)
※男子は継続募集。女子は定員に達しています。
令和6年度の募集は3月中旬になります。
お問い合わせ等は2次元コードよりお願いします。



2次元コード

ホワイトフラッグス

日時：原則毎週土曜日 9:00～11:00
場所：山形市松波ラグビー場 (山形市立第一中学校南側グラウンド)
※冬期間は室内に変更する場合有
対象：中学1年生～3年生・高校1年生～3年生
※ラグビー経験や性別は問いません。初心者も大歓迎です。
(経験や技術レベルに合わせて指導します。)
※他種目からの転向、現在行っている競技を続けながらの参加も可能です。
・小学校でラグビーをした人・ラグビーに興味のある人
・スポーツを始めたい人・他のスポーツでの出場機会に恵まれず活躍するチャンスが欲しい人 等 大歓迎です！
会費：体験期間 (令和6年1月～令和6年3月) は入会費・年会費無料
(保険料・遠征費等は別途集金)
興味のある方や入会を希望される方は下記担当までお気軽にご連絡ください。
(お問い合わせ) 代表 佐藤悠介 ☞ whiteflags@gmail.com

ラグビー



君にしか
できない
ポジションが
君を
待っている。

なぎなた



◎山形ジュニアなぎなたクラブ練習会
日時：原則毎週土曜日 9:00～12:00
場所：山形市総合スポーツセンター剣道場・江南体育館等
会費：1ヵ月 500円
指導者：山形県なぎなた連盟から派遣
日本スポーツ協会 公認コーチ資格者
(お問い合わせ)
山形市企画調整部スポーツ課

(お問い合わせ先)
山形市企画調整部スポーツ課
TEL 023-641-1212 (内線633・634) E-mail: sports@city.yamagata-yamagata.lg.jp

【中学生向けチラシ(表)】

【中学生向けチラシ(裏)】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【なぎなた合同部活動練習】



【高楯中部活動改革推進委員会 野球】



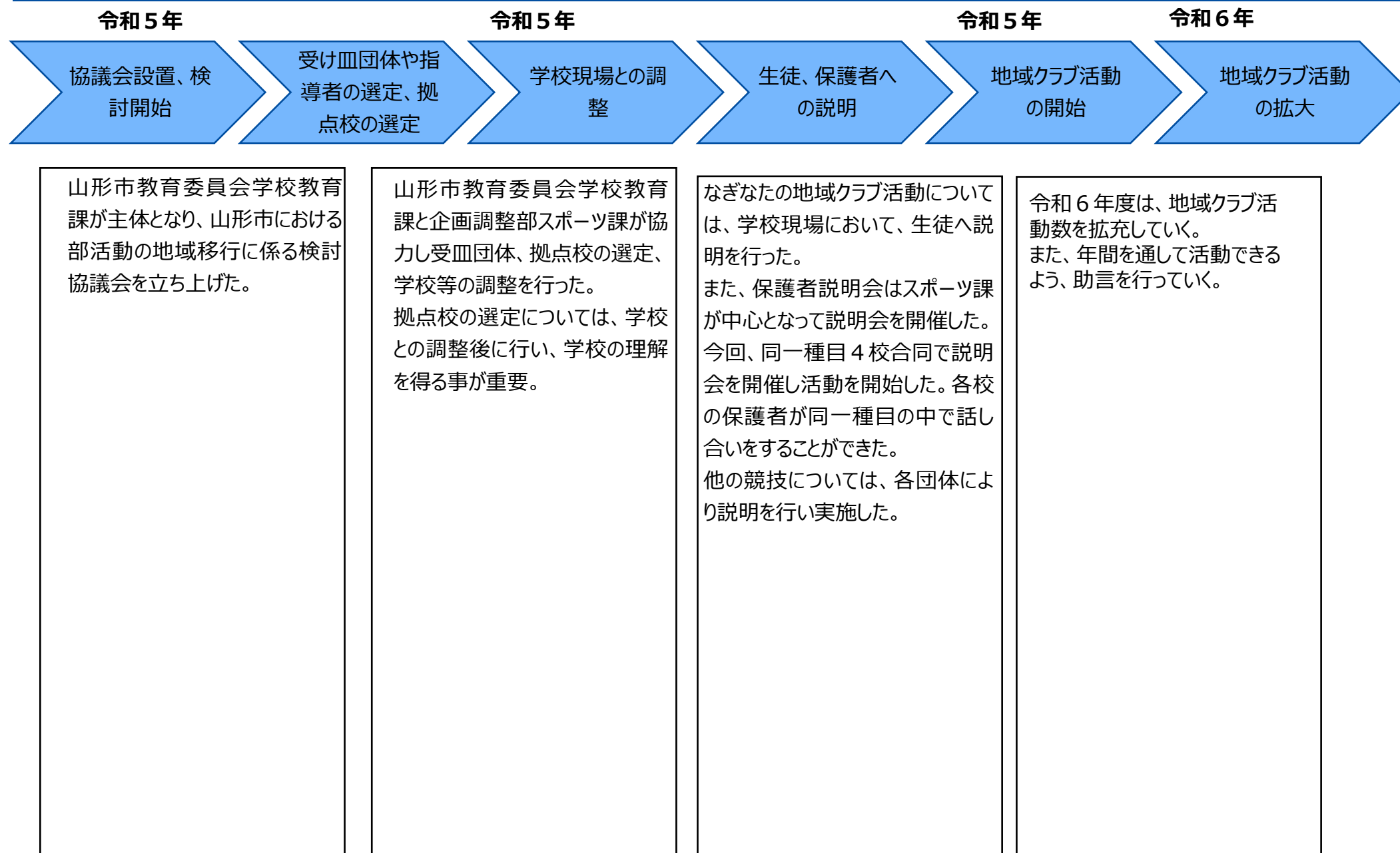
【山大クラブJrバレーボール練習】



【H C 山形ハンドボール】

2. 実証内容と成果

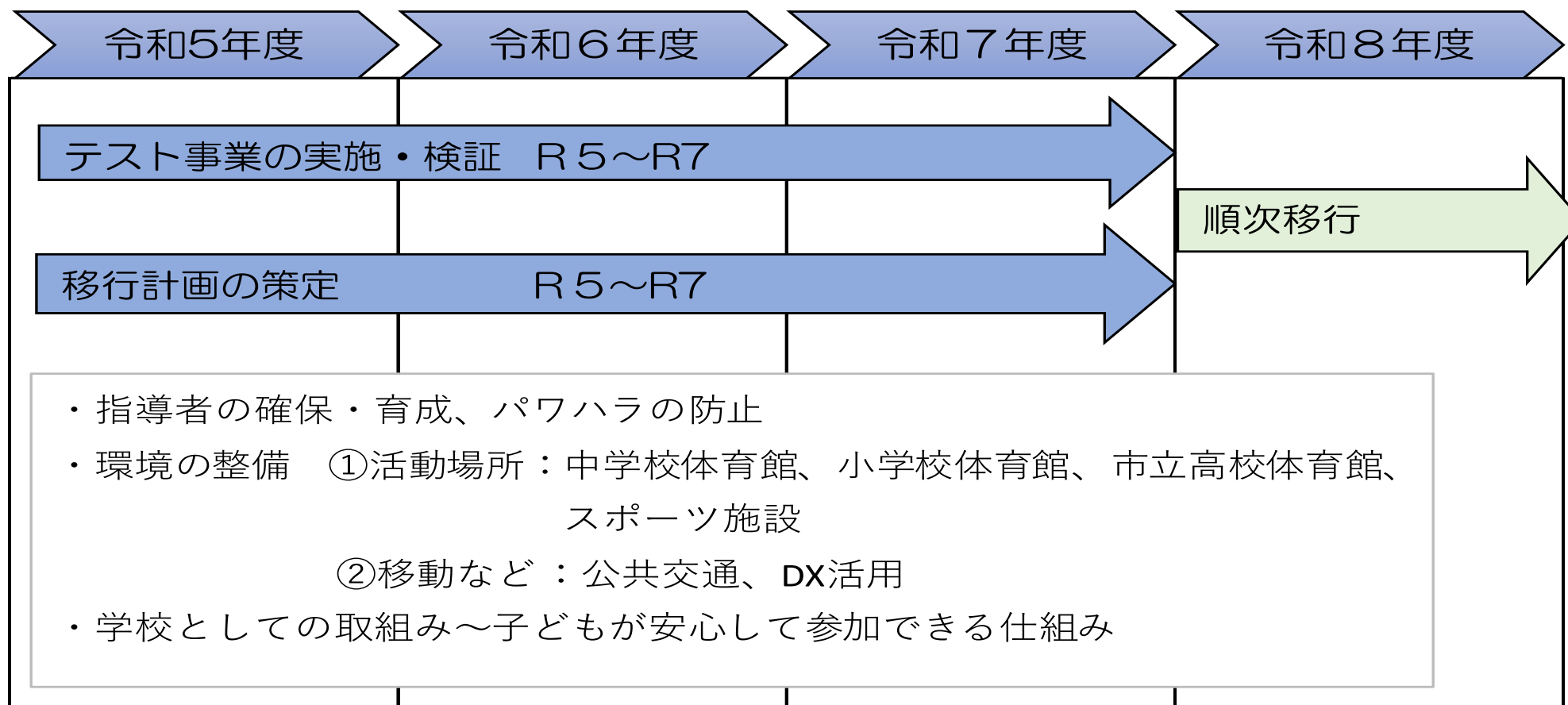
地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

【スケジュール案】



**【山形県上山市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県上山市
担当課名	教育委員会生涯学習課
電話番号	023-672-1111

1. 自治体の基本情報

基本情報

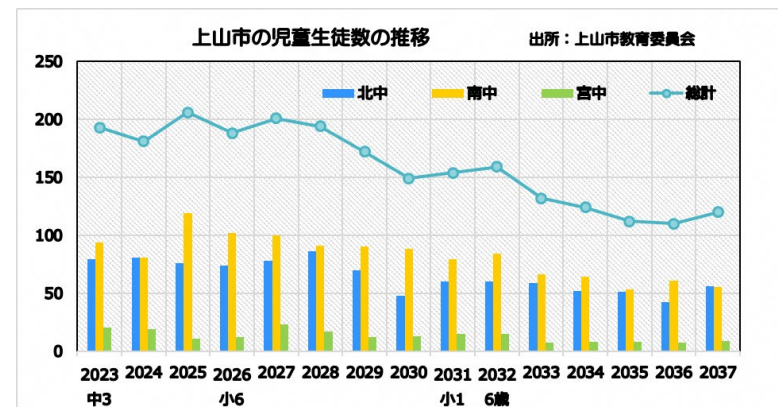
人口	28,375人 (R5.4住民基本台帳)	部活動数	27部活
公立中学校数	3校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	580人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定していない

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

生徒数の減少によって、団体として大会参加ができない部活動が生じており、他校との合同チームの編成等が必要な状態となっている。今後についても改善の見込みが立たないことから、持続的な部活動及び地域における生涯スポーツとしての地域スポーツ活動の検討が必要となっている。

本市の児童生徒数は、平成21年(2009年)で2,684人でありましたが、令和5年(2023年)では1,634人まで減少し、今後5年間の推計で約20%の減少が見込まれます。(参照右図)

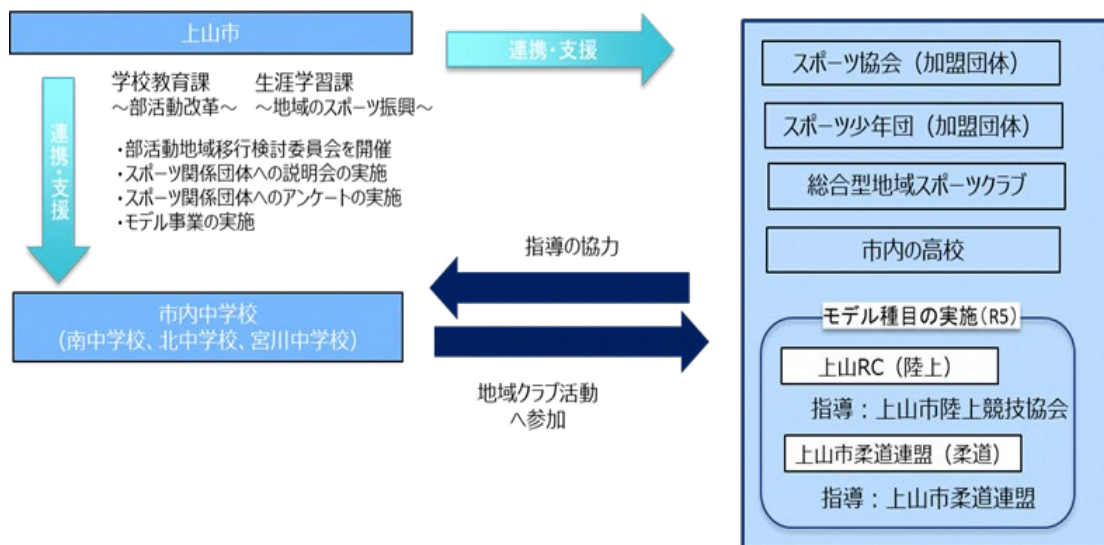
スポーツ協会加盟団体へのアンケートの実施や、関係団体との連絡調整、地域住民への周知、地域移行検討に係る業務への支援などの取組みが必要である。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会（学校教育課）**
 - ・部活動改革関連（中学校との連絡調整）
 - **教育委員会（生涯学習課）**
 - ・地域のスポーツ関係団体との連絡調整
- （学校教育課・生涯学習課）
- ・部活動地域移行検討委員会を開催
 - ・スポーツ関係団体への説明会の実施
 - ・スポーツ関係団体へのアンケートの実施
 - ・モデル事業の実施

年間の事業スケジュール

- 7月
～2月 モデル種目の実施
- 10月 第1回検討委員会の開催
 - ・今後の方針、令和5年度の進め方・説明会、アンケートの実施・モデル種目での実証実施
- 11月 団体への部活動地域移行に関する説明会の開催
 - 団体への受入の意向等についてのアンケート調査の実施
- 12月 第2回検討委員会の開催
 - ・スポーツ関係団体のアンケート集計結果分析、考察、モデル事業の進捗
- 3月 第3回検討委員会の開催
 - ・進捗状況の報告、検討事項の洗い出し

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

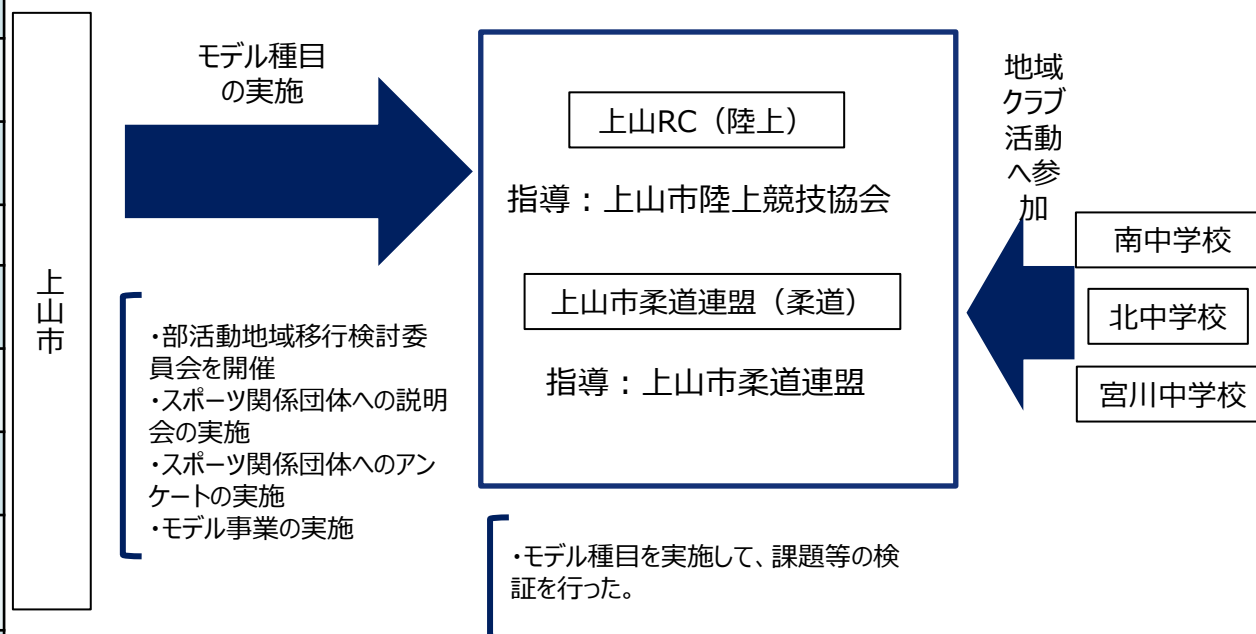
拠点校数	3校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	陸上競技、柔道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	南中学校、北中学校、宮川中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	無し
地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技、柔道
運営主体名	上山RC、上山柔道連盟
運営類型	・地域スポーツ団体等運営型（民間スポーツ事業者運営型）
1か月あたりの平均的な活動回数	陸上：月2回程度 柔道：月2回程度
指導者の主な属性	陸上：兼職兼業 柔道：民間事業者
活動場所	陸上：山形市あかねヶ丘陸上競技場 柔道：体育文化センター、宮川中学校 北中学校柔道場
主な移動手段	保護者の自家用車で送迎、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	無し
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年（陸上）

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

コーディネーターに関する取組、運営団体・実施主体の体制整備

取組の 成果

11月からコーディネーターを配置し、検討委員会の開催における準備、議事録の整理業務等を行った。また、団体への説明会における開催準備及びアンケートの集計など、事務的な作業を行った。

コーディネーターの人選については、7月頃から探したもののなかなか引き受けしてもらえず、採用が当初の想定よりも遅れてしまった。そのため、運営団体・実施主体の体制整備の調整までは進めることができなかった。

特に 工夫した 事項

総括コーディネーターの人選が困難であったため、学校教育課と連携し、同課に在職中の元教諭に兼務で総括コーディネーターを引き受けていただいた。

今後の 課題と 対応方針

上山市部活動地域移行検討委員会を主体として検討、協議を進めるうえで、コーディネーターの果たす役割は大きいと考えられ、人選を早い時期から取組み、関係者との連携を図っていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

人材の発掘・配置・研修等に関する取組

取組の 成果

モデル種目の実証の取組を柔道と陸上において実施し、それぞれ、陸上競技協会と柔道連盟から指導者を配置してもらい、実証事業を行うことができた。

陸上教室の実施では、基本的技能について体の動かし方等を指導いただいた。参考になり今後に生かしたいといった感想も聞かれ、専門的な指導、技術向上を求めている生徒もいることが分かった。

特に 工夫した 事項

陸上競技については、蔵王坊平アスリートヴィレッジに合宿に来ている埼玉県の団体から指導者を派遣してもらい、練習を行った。

今後の 課題と 対応方針

モデル種目以外で、指導者をどう確保するか、今後の課題である。また、競技力向上をめざす生徒もいることから、専門性や資質・能力を有する指導者を地域の中で広く確保することが必要である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

スポーツ協会、スポーツ少年団、競技団体、大学等との連携に関する取組

取組の 成果

市スポーツ協会役員との情報交換、打ち合わせを複数回実施し、スポーツ協会の事業計画に盛り込んでもらい、連携して取り組むとともに加盟団体からの協力についても依頼した。

また、スポーツ関係団体を対象にして部活動地域移行に関する説明会を実施し、情報提供を行うとともに意見交換により地域移行についての理解を深めた。

アンケートを実施し、関係団体の活動状況や受け入れの際の課題等について現状把握を行った。

特に 工夫した 事項

アンケートの実施において、締め切りまで未回答だった団体について、追加で個別に聴き取りを行い、結果の集約を行った。

今後の 課題と 対応方針

今後、受入可能な団体と活動条件などの調整を行い、可能な種目からマッチングを行い移行に繋げていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

生徒のニーズに応じた活動の検討

取組の 成果

生徒のニーズを調査するためのアンケートの実施に向けて情報収集を行い、対象、聴き取り項目、実施方法などについて検討委員会において議題とし、今後の事業に活かせるアンケートとなるよう検討した。

スポーツ関係団体へのアンケート集計結果により、指導できる・指導できる可能性があると答えた団体が合わせて14団体あり、生徒のニーズに完全に対応することは難しいが、地域の受け皿となり得る団体はある程度数あるという現状を確認することができた。

特に 工夫した 事項

アンケート結果をより効率的に集計できるよう、Googleフォームを利用し回答してもらうことを検討している。

今後の 課題と 対応方針

生徒及び保護者、学校の教師を対象にしたアンケート調査を令和6年度に予定している。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設の効果的な活用の検討

取組の 成果

モデル種目を実施したものの、活動を行う上での課題等の状況整理ができていないため、施設の活用についての検討まで進めていない。

特に 工夫した 事項

特になし。

今後の 課題と 対応方針

各種目ごとに活動を行う上での、課題を洗い出し、活動場所の選定、環境整備を進めていく。
活動場所としては、公共のスポーツ施設や学校施設などが想定されるが、重複した場合などの調整など検討しなければならない課題も多い。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

中学校部活動の地域移行に関するアンケートの結果		回答団体（25）
問1	部活動が学校から地域等に移行することについて、どう受け止めていますか。	
	① 関わることを検討したい	10
	② 関わることは難しい	6
	③ 積極的に関わりたい	4
	④ 関心がない	0
	⑤ その他	6
問2	あなたが所属する団体等で休日（土曜日）に中学生の活動を支援するため、ご指導いただくことは可能ですか。	
	① 指導できない	7
	② 指導できる、指導できる可能性がある	10
	③ 指導できるか可否を検討中	3
	④ わからない・現時点で検討していない	5
問3	【問2】で「①指導できない」とお答えの団体にお聞きします。指導できない理由は何ですか。※下記の中から最大3つ選んでください。	
	① 指導者の確保や調整が難しい	6
	② 指導の専門性が担保できない	2
	③ 活動場所の確保が難しい	2
	④ 自分たちの活動で忙しい	1
	⑤ 生徒を預かる責任の担保ができない	4
	⑥ その他	1
問4	【問2】で「②指導できる、指導できる可能性がある」を選んだ団体にお聞きします。	
	休日（土曜日）に、子どもたちの活動を指導する場合、どれくらいの時間が可能ですか。また、ご指導いただける種目（競技名等）、内容（時間帯）についてご記入ください。	
(1)	時間	
	① 1時間以内	0
	② 1時間から2時間	7
	③ 2時間から3時間	5
	種目（競技名等）	別紙
	内容（時間帯）	別紙
(2)	中学生を指導する場合、心配と思われることは何ですか。	
	① 責任の所在	7
	② 活動場所の確保	6
	③ ケガなどの保険対応	4
	④ 生徒・団員同士のトラブル対応	1
	⑤ 指導内容・指導方法	2
	⑥ 苦情対応	2
	⑦ その他	1

(3) 指導する場合に何人まで受け入れすることが可能ですか。		
① 10～20人程度		3
② 20～30人程度		4
③ わからない		1
④ 検討中		1
(4) 指導する場合の活動日について		
① 土日のみできる		4
② 平日・土日どちらもできる		3
③ できるかどうか可否を検討中		1
④ わからない・現時点で検討していない		2
(5) 指導する場合の活動地域と活動場所について		
① 学校を使用できるなら市内全域で活動可能		6
② 検討中		4
③ わからない		1
(6) 使用する器具・道具の会場への運搬について		
① 会場となる施設（学校等）にあるものを利用したい		7
② その他		2
(7) 指導する場合にあるとよいと思われる市の支援は何ですか。		
① 会場使用料の減免		6
② 活動場所の優先的使用		7
③ 会費等の補助		4
④ その他		2
問5 ご指導にあたって整理すべき課題や気になることは何ですか。※下記の中から最大3つ選んでください。		
① 多様化している生徒との関わり方について		4
② 指導者の報酬等について		5
③ 指導する人材の確保について		16
④ 指導にあたって資格の取得について		5
⑤ 指導にあたっての身分的保証の確保について		6
⑥ 万が一のケガなどに対応するための保険等の加入について		9
⑦ 会計管理について		3
⑧ 大会の引率について		9
⑨ その他（※自由に記入してください）	別紙	

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



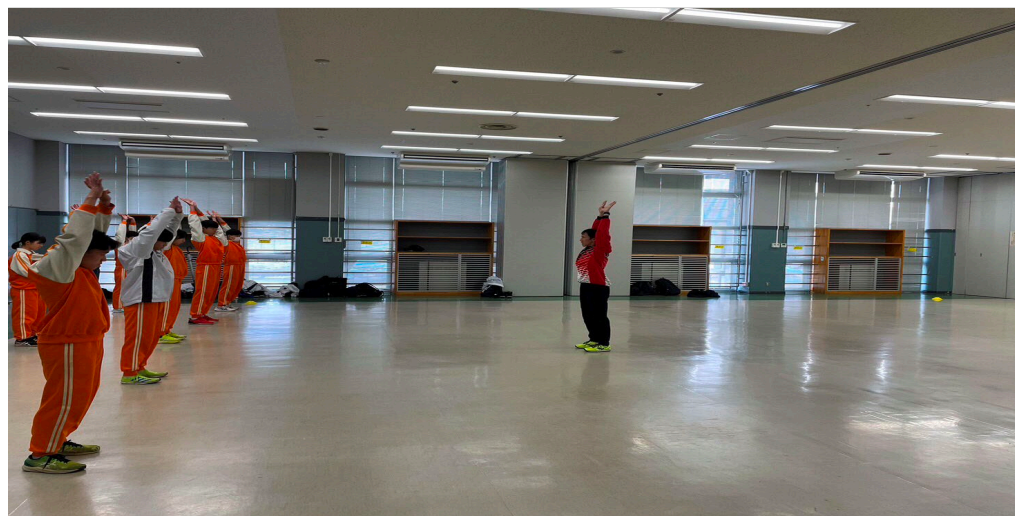
【山形市あかねヶ丘陸上競技場にて陸上練習】



【山形市あかねヶ丘陸上競技場にて陸上練習】



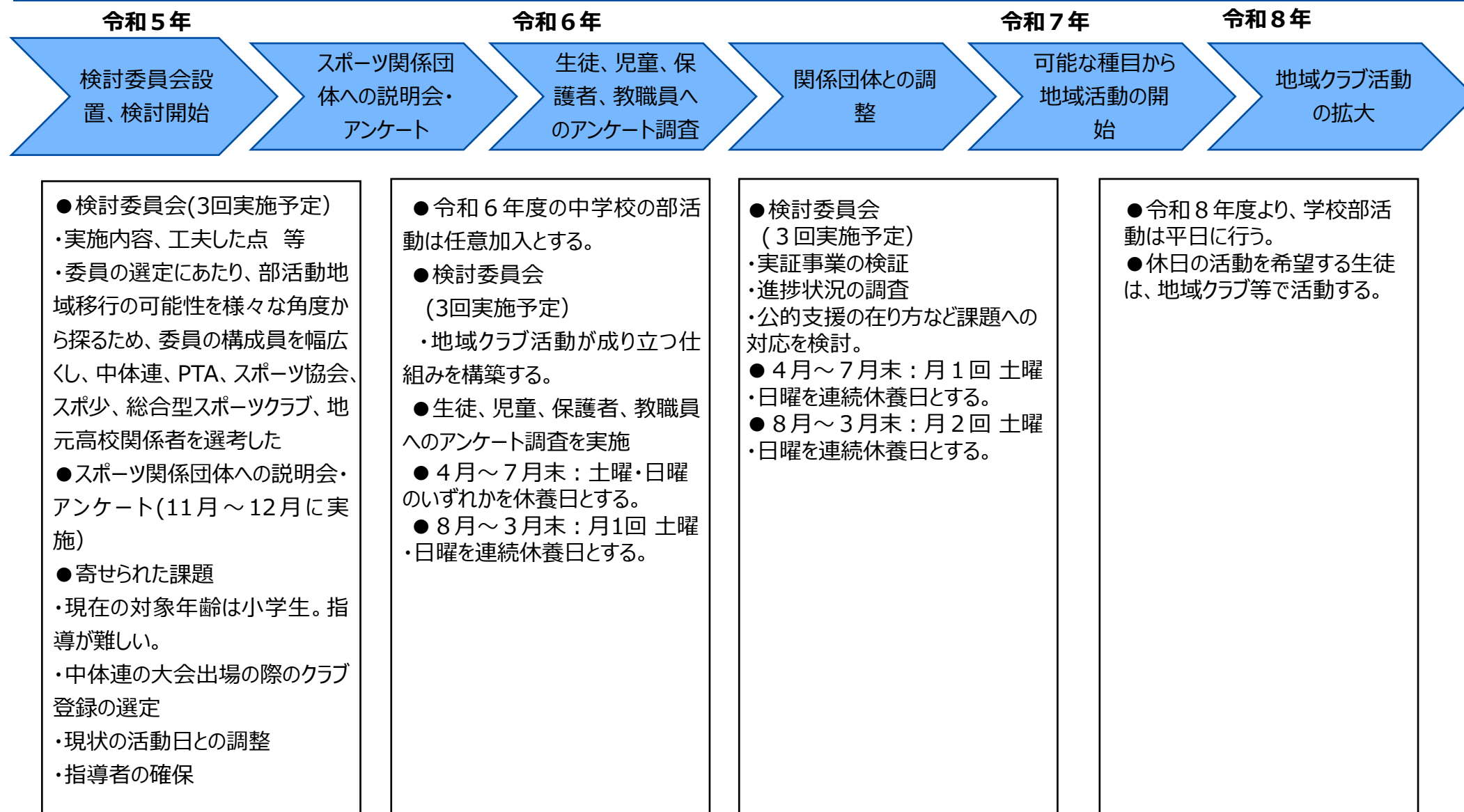
【陸上教室(講師:原田隆弘氏)】



【陸上教室（講師:原田隆弘氏）】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	令和5年度	6年度	7年度	8年度
上山市教育委員会 (生涯学習課)	<p>休日の部活動の移行は、可能な種目から段階的に進める。令和7年度末を目標</p> <p>スポーツ関係団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目との調整 可能な種目から 			
	<p>モデル種目の実施</p> <p>検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査 ・地域移行の運営団体の検討 			
(学校教育課)	<p>休日の部活動を地域での活動に移行。令和7年度末を目標</p> <p>土日の部活動の移行期間</p> <p>学校との調整・連携 (教員、生徒、保護者等)</p>			

**【山形県山辺町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県山辺町
担当課名	教育委員会教育課
電話番号	023-667-1115

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	13,546人(R6.2.1現在)	部活動数	14部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	384人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化の進展、教員の恒常的な時間外勤務により、中学校における部活動は、将来的には持続可能な運営が困難になると見込まれる。

中学生のみならず、地域住民が継続的にスポーツに親しめる環境の整備が必要となっている。

加えて、児童生徒や保護者へのアンケートの実施や、関係団体との連絡調整、地域住民への周知、地域移行（部活動改革）検討に係る作業部会の支援など、人材不足により取組みが困難な状況にあるため、本事業を活用したものである。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

山辺町部活動の地域移行 検討委員会

【構成団体】

- ・山辺町スポーツ協会
- ・山辺町スポーツ推進委員会
- ・山辺町スポーツ少年団
- ・山辺の里スポーツクラブ
- ・山辺町文化団体協議会
- ・山辺町立山辺中学校PTA
- ・山辺町立山辺中学校
- ・株式会社パスラボ

【事務局】
山辺町
教育委員会

▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育課）

学校教育係が主担当となり、総務係（学校施設関係）、スポーツ振興係（スポーツ団体関係）及び社会教育係（文化団体関係）が協調して事業を推進している。

年間の事業スケジュール

令和5年

6月 第2回山辺町部活動の地域移行検討委員会 開催

7～9月 児童生徒及び保護者向けアンケート調査の実施

12月 第1回山辺町部活動の地域移行検討委員会作業部会 開催

※ 引き続き、検討委員会及び作業部会の開催を予定

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営計画（案）

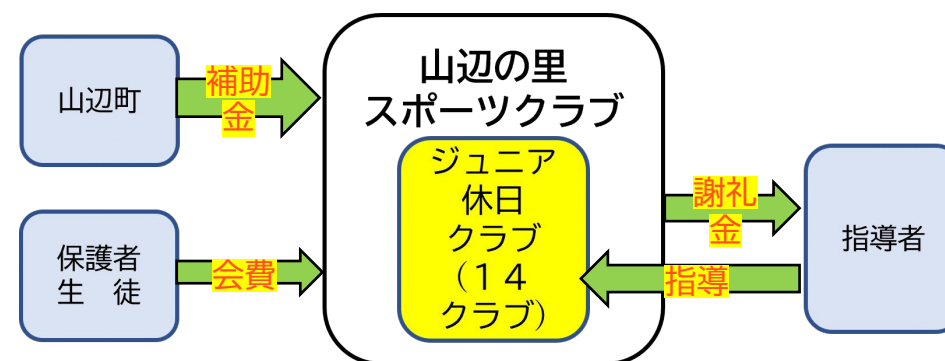
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	野球、サッカー、ソフトテニス男子、ソフトテニス女子、陸上、柔道、剣道、体操、バスケットボール男子、バスケットボール女子、卓球男子、卓球女子、軽スポーツ
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	14部活		

主な取組例

▼活動概要（案につき、現在協議中）

拠点校名	山辺町立山辺中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	（未定）
地域クラブ活動で実施した種目	（未定）
運営主体名	特定非営利活動法人山辺の里スポーツクラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型（総合型地域スポーツクラブ運営型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	12回程度を想定
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ
活動場所	町内中学校、町内体育施設
主な移動手段	徒歩、保護者による送迎
1 人あたりの参加会費等（年額）	（未定）
1 人あたりの保険料	（未定）

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図） （案につき、現在協議中）



【実証内容と成果】令和5年度は上記運営体制の実現に向けた関係団体との協議を行い、令和6年度以降も引き続き協議を進めることを確認した。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・コーディネーターに関する取組
- ・運営団体・実施主体の体制整備
- ・ジュニア休日クラブ運営要項（案）作成に向けた関係団体との調整

取組の成果

- ・部活動改革コーディネーターを配置。生徒にとって望ましいスポーツ環境と教員の働き方改革の両立という部活動改革の目的を達成するため、中学校の運動部活動の改革に当たり、関係団体や学校、教育委員会との連携調整等を行った
- ・既存の総合型地域スポーツクラブとの協議を実施。中学生の活動の受け皿拡大の可能性を探った

特に工夫した事項

- ・部活動改革コーディネーターに元教員を充てることで、豊富な経験や人脈に下支えされた効果的なコーディネート活動を実現
- ・休日の運動部活動を、総合型地域スポーツクラブにおけるジュニア休日クラブと位置付けることを計画。既存の総合型地域スポーツクラブをプラットフォームとした、中学生の活動の場の確保の実現に向けた協議を行った

今後の課題と対応方針

- ・既存のジュニア休日クラブについて、運営主体の明確化とガバナンスの確保と強化（責任者の選任、規約の整備、会計処理の適正化）を図る。総合型地域スポーツクラブ傘下に入ることでの将来的なネットワーク化の形成
- ・スポーツ安全保険への加入促進

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

・人材の発掘・配置・研修等に関する取組

取組の 成果

- ・効果的な指導者研修のあり方について意見交換を行った
- ・人材の確保策について協議を行った

特に 工夫した 事項

- ・先進優良事例について情報収集を行った
- ・既存の総合型地域スポーツクラブとの連携について協議を行った

今後の 課題と 対応方針

- ・中長期的な指導者確保と質の向上について
- ・県の指導者バンクの活用

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

・生徒のニーズに応じた活動の検討

取組の 成果

・児童生徒（小学校第4学年～第6学年、中学校第1学年・第2学年）及び保護者向けアンケート調査の実施
→ 小学校児童（回答率81.29%）休日に地域のクラブ活動に参加したい43%、したくない57%
小学校保護者（回答率50.00%）休日の活動に参加することに賛成70%超、送迎の困難さが課題
中学校生徒（回答率76.89%）前向きな目標を持って活動している生徒が80%近くいる。部活動は必要80%
中学校保護者（回答率60.92%）部活動を子供が楽しんでいると思っている保護者が78%いる。
費用負担は3,000円以内が適当と72%が回答

特に 工夫した 事項

・中学校進学前の小学校第4学年から第6学年までの児童及び保護者をもアンケート調査の対象に含めることで、近い将来のニーズの把握に努めた

今後の 課題と 対応方針

・アンケート調査結果に基づく、活動環境整備の推進
・競技性を志向しない生徒を対象とした活動の場の提供を図る（例：軽スポーツ）

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

・学校施設の効果的な活用の検討

取組の 成果

・山辺町部活動の地域移行検討委員会及び作業部会での協議
・作業部会では「学校・保護者部会」において、休日の学校施設の利用について想定される課題等について検討

特に 工夫した 事項

・町内唯一の中学校であるため、学校・PTA・教育委員会による膝詰めの話し合いが可能
・中学校と町の体育施設が隣接するため、一体的な利活用が可能

今後の 課題と 対応方針

・休日の学校施設利用のルールづくり。万が一の事故に係る対応

2. 実証内容と成果

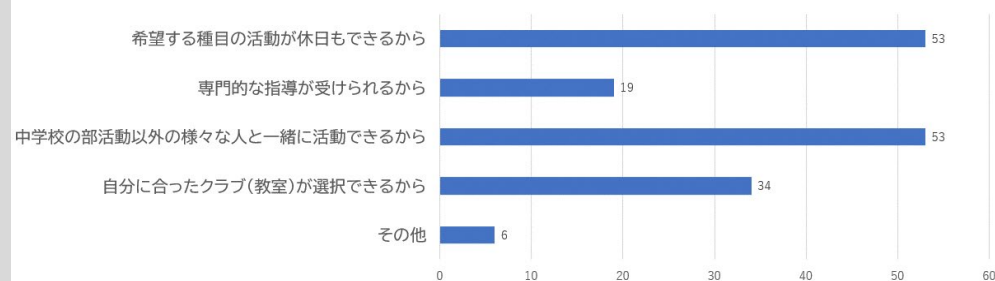
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

中学校の部活動改革についてのアンケート結果（小学校児童）

「休日の地域でのスポーツ活動や文化活動に参加したい」とお答えした児童にお聞きます。

その理由を教えてください。

122件の回答

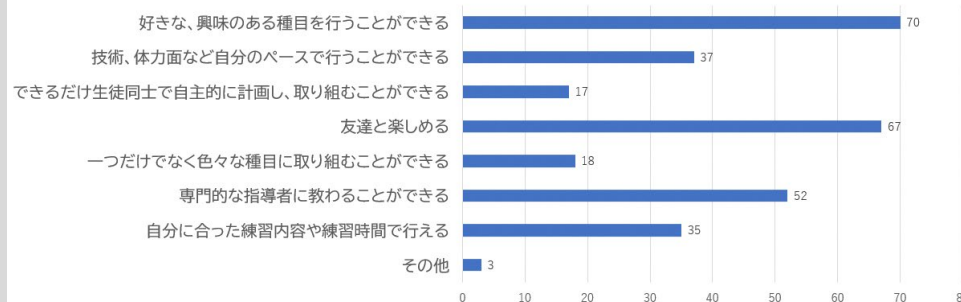


【児童向けアンケート結果の抜粋】

中学校の部活動改革についてのアンケート結果（中学校生徒）

町にスポーツ団体(スポーツ少年団の中学生の部やジュニアクラブ等)、文化団体などができたらどう思いますか。二つ以内で選んでください。

183件の回答



【生徒向けアンケート結果の抜粋】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【検討委員会委員】



【検討委員会事務局】



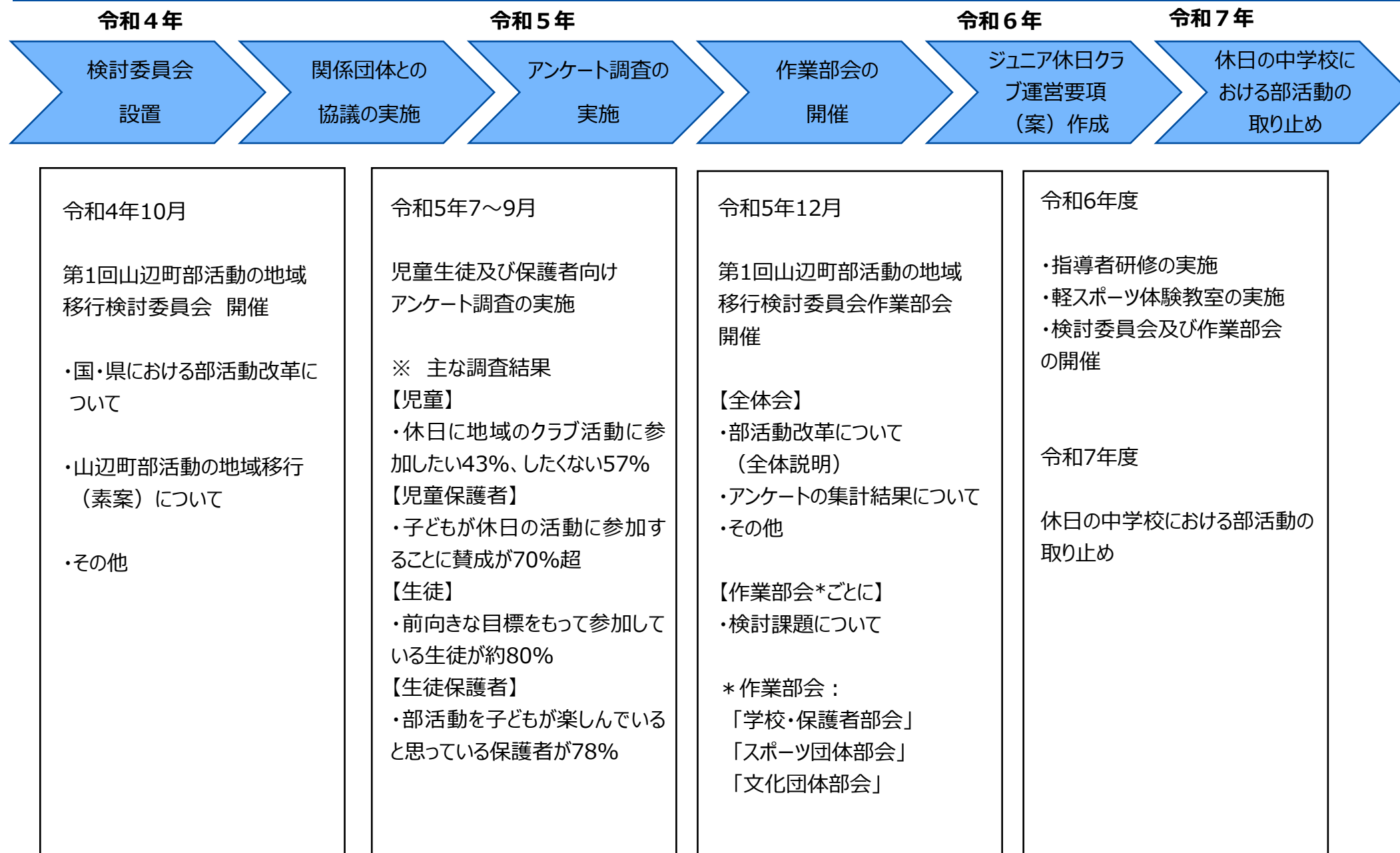
【検討委員会協議風景】



【検討委員会協議風景】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

R4年度

- ・10月 「部活動の地域移行検討委員会」の設置
- ・「作業部会」での検討と受け皿組織の決定

R5年度

- ・ジュニア休日クラブ運営要項（案）作成
- ・指導者の確保、研修計画作成

R6年度

- ・5月 ジュニア休日クラブ運営要項（案）提示
- ・7月 ジュニア休日クラブ運営要項決定
- ・8月 保護者への説明と新クラブ員の募集
- ・10月 新人大会終了後に新クラブ活動開始
- ・（8割以上のクラブで試行開始をめざす）
- ・2月 試行後の課題を明らかにしジュニア休日クラブ運営要項改訂

R7年度

- ・4月 全クラブで活動開始、指導者の研修充実

**【山形県中山町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	山形県中山町
担当課名	教育課生涯学習グループ
電話番号	023－662－2235

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	10,698人	部活動数	14部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和4年9月設置
公立中学校生徒数	245人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	なし

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

中山町の現状・課題

- ・生徒数が年々減少し、団体競技種目において、大会出場が難しくなっている。
- ・生徒数の減少に伴い教員数も減少しており、既存の部活動に対し教員が一定の水準で関わるのが難しくなっている。
- ・教員自身が指導経験の無い種目の部活動担当に当たることがあり、教員にとっても生徒にとっても良くない状況が起こっている。

その際、一部の部活動では地域の指導者と連携することで指導体制を整えている。

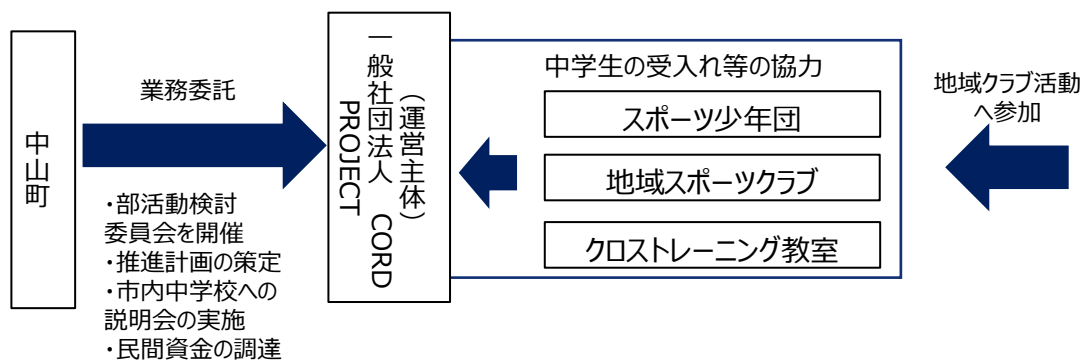
このことから、地域に指導者がいる・いない等で各部活動への指導体制が均一となっていない。

- ・当町は「スポーツのまち」をキャッチフレーズに掲げていることから、各スポーツ団体においては活発に活動している現状だが、町の人口減少及び高齢化に伴う競技者の減少により、将来的な団体運営に不安がある。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（教育課 生涯学習グループ）
 - ・地域の受け皿整備
 - ・既存のスポーツ団体等との調整
 - ・学校との調整
 - ・スポーツ施設や学校開放施設の調整
 - ・指導者の育成

年間の事業スケジュール

<令和5年度>

- ・実証事業により、地域移行の体制、総事業費、協賛企業の調査
- ・各地域団体と中学校との調整

<令和6・7年度>

- ・準備が整った団体から段階的に生徒受入れを開始
- ・町が各教室事業を整備

<令和8年度>

- ・休日の地域スポーツ活動へ完全移行

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

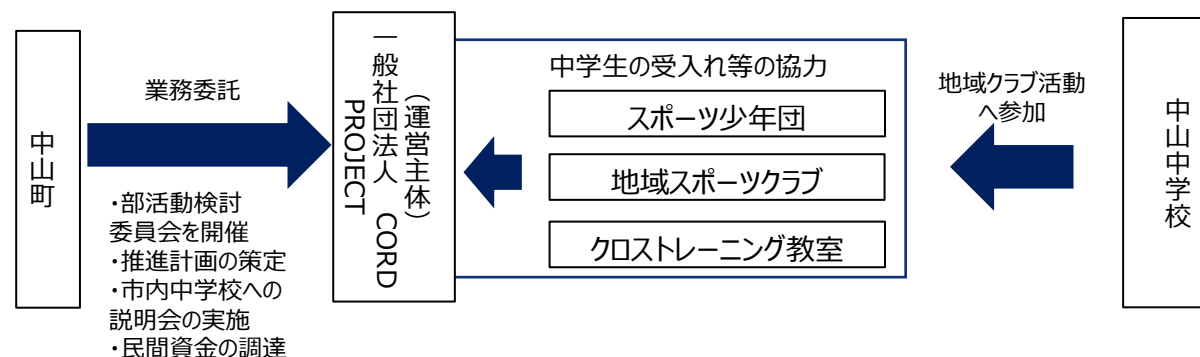
拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	すべての運動部を採用
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	なし		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	中山中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1 部活
地域クラブ活動で実施した種目	なし
運営主体名	一般社団法人CORD PROJECT
運営類型	その他（その他の類型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	マルチスポーツ：月2回程度
指導者の主な属性	実業団所属選手
活動場所	中山中学校施設
主な移動手段	公共交通機関
1 人あたりの参加会費等（年額）	0 円
1 人あたりの保険料	

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

関係団体との調整や整備に関しては教育委員会主導の下、保護者への説明会などを事前に開催し関係者への理解を深める活動を行なった。主に、CORD PROJECTがコーディネータとなり指導者の管理などを行い、学校や生徒との連携や調整は教育委員会主導で実施した。

取組の成果

全校生徒277人に対し、学校側から事前にチラシ配布を行い、実施の1週間前に出欠申込のチラシを配布し、参加者を募ったが土日の部活動を中止せずに学校部活動との並走ということもあり、参加者が1回あたりの平均5.2人と参加率が低い結果となった。
参加者の生徒としては、部活動の生徒もいたが、社会体育や地域クラブの生徒の参加も見受けられ、新たな交流機会の提供となった。

【日時/参加者】

日時	人数
10月9日	16人
11月11日	2人
11月19日	2人
12月2日	19人
12月17日	2人
1月7日	2人
1月20日	中止
2月4日	2人
2月18日	2人

特に工夫した事項

新しい取り組みに対し、生徒とのコミュニケーションを意識し、告知のチラシのデザインなどに気を使った。
教育委員会の方で部活動の顧問に参加の依頼を行うなど、学校側と子供達への理解のほか、保護者に対しても理解していただけるようなチラシにした。

今後の課題と対応方針

前提として、学校部活動を行っている中での、実施という状況でハードルも高く参加者を募ることが非常に困難であった。事前に学校側へのオリエンを行ったが、オリエンだけでの参加促しは不十分となった。部活動と地域活動の並走は、生徒にとって判断を迷わせる形となった。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

指導者の質の保証と量の確保は、実業団とのリレーションを基に実施。

指導者の技術的質は日本代表経験者を選定し、中学生対象の指導カリキュラム実習を事前に行なった。教育的質に関しては、公認スポーツ指導者養成テキストを基に事前教育を行い、支援学級の生徒が参加した場合に備えて、障害者スポーツ指導員の初級も取得させた。

量の確保は独自のネットワークを駆使し、確保していたが、参加者が少なく活用がなかった。

取組の成果

町内の指導者発掘に時間を要するため、一般社団CORD PROJECTにより現役の陸上トップ選手を指導者として確保した。

特に工夫した事項

町としては初となる質の高いトレーニングメニューを提供した。

トップアスリートの体験談など、スポーツへの取り組み方を考える講話を行った。

今後の課題と対応方針

指導者の質と量は担保していたが、参加者が2名という日もあり、活用することができなかった。

今後は参加者と内容のニーズも調整し、参加者が増えた際にも同様の質のものを提供できるようにしていきたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

実業団と連携協定をCORD PROJECTの方で行い、指導者との連携を図る。

取組の 成果

教育委員会の方で、学校部活動の教員へ個別に打診を行った週には参加者が増えるということにつながった。
町内スポーツ団体と学校側との連携を図るため、年度途中という難しい時期ながら、教育委員会主導により個別に学校及び町内スポーツ団体に対するヒアリングを行った。

特に 工夫した 事項

指導者との連携強化の為、指導者の社会活動PRセクションを団体内に設立し拡散の体制を整え、指導者側への価値提供を意識した。

今後の 課題と 対応方針

学校側との関係強化を強くするために、我々が他の地域で行っている説明会や座談会などの理解を深める会を実施する必要性を感じた。
地域クラブと学校がスムーズに連携するために、種目ごとの試合に出る条件等の把握など、個別に団体等から聞き取りが必要。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

当町で行うクロストレーニングに対し面的・広域的な取り組みとして、地域企業への理解や支援を獲得することを重きに置き、プレイベントを立ち上げ、開催し地域メディアや企業に声掛けをした。

取組の成果

一般社団法人CORD PROJECTによるプレイベントを実施し、他教育委員会やメディアにも見学参加を呼びかけ、近隣を巻き込んだ形となった。

特に工夫した事項

地域のさまざまな事情を加味した質的評価を基に支援をいただけないか企業に持ちかけ、理解促進を図った。

今後の課題と対応方針

企業等から支援を獲得できず、質的評価も重要だが、最低限の量的評価も必要だと感じたため、近隣市町村からの参加者受入れなども検討していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

陸上競技の日本代表選手や体操のメダリストなどを招聘し生徒が普段触れられないアスリートの指導を行なった。
また、内容もマルチスポーツを意識し、どのスポーツにも必要な運動基礎やプレイベントでは座学なども取り入れた。

取組の 成果

様々なスポーツでの競技力の向上に資する、スポーツの楽しさや非認知能力の向上に重きを置いた活動を参加者に提供し、参加者の満足度を高めることができた。

特に 工夫した 事項

参加者に何故、この運動が必要か？考える機会を提供するために、プログラム中に対話の時間を作りながら実施した。
参加者が少人数だったため、メニューを意識して取り組んだ。

今後の 課題と 対応方針

基本方針として、勝利至上主義よりも楽しさや経験の拡大、さらには非認知能力の向上に重きを置いているので多くの指導者を巻き込み、ベンチャースポーツなども取り入れて進めていきたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

受益者負担をゼロを目標に実施し、スポンサー収益のみで実施。

取組の 成果

一般社団CORD PROJECTが自社の協賛金収益により、参加費の負担金をゼロにした。

特に 工夫した 事項

クロストレーニング教室を参加費ゼロで自走する取り組みとして、教室を開催する一般社団CORD PROJECTが協賛金を集めやすくするため、プレイベント実施の際にメディアへの掲載を行った。

今後の 課題と 対応方針

今後は、支援者が支払う対価の指数としての参加者数に重きを置いて活動を行いたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

主に学校の体育館を活用させていただいたが、使用不可の日程のみ地域の体育館を活用した。

取組の 成果

対象校が1校であり学校拠点に行うのは非常に効率も良く、効果的だった。

特に 工夫した 事項

スケジュールを先行的に確保するために、教育委員会と学校との連携を重要視し、教育委員会主導の基調整を行なった。

今後の 課題と 対応方針

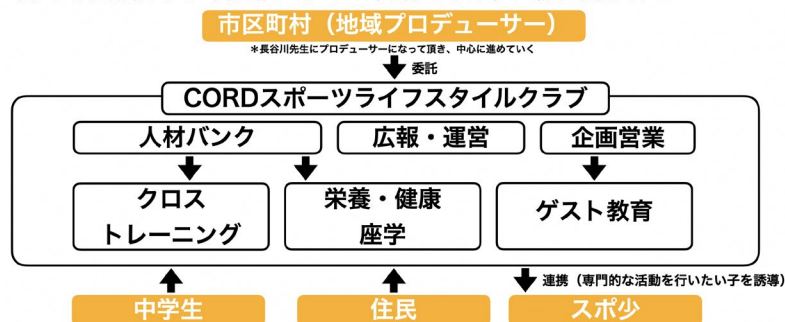
夏の時期に移行した際は冬季に活用しなかったグラウンドも活用していきたい。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

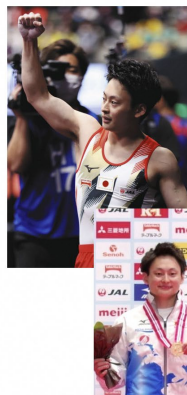
CORDプラン

部活に囚われないスポーツの場を作り、運動活動に取り組むスポーツライフスタイルクラブ組織を形成。限りなく受益者負担の少ない組織を作りスポーツへの参加障壁を下げ、多くの機会を提供する。



座学講師

徳洲会体操クラブ：米倉 英信選手



座学テーマ：スポーツを通じて学んだ事

第一回の本会において、世界大会でメダルを獲得した経験のある米倉選手にスポーツを通じて学んだことをテーマに、栄養や休養の重要性や、自身の経験の中での取り組んで良かったことなどをお話いただきます。

主な戦歴

- ・2018 全日本種目別 跳馬 優勝
- ・2019 FIG種目別チャレンジカップ・ソンバトヘイ大会 跳馬 金メダル
- ・2020 全日本種目別 跳馬 優勝
- ・2020 第74回全日本体操種目別選手権 種目別跳馬 1位
- ・2021 第75回全日本体操種目別選手権 種目別跳馬 1位
- ・2021 FIG種目別ワールドカップ・ドーハ大会 種目別跳馬 1位
- ・2021 第50回世界体操競技選手権大会 種目別跳馬 2位

p.9

What is cross training?

クロストレーニングとは？

成長段階に合わせた総合トレーニングで様々な運動に必要な総合運動能力を高めるトレーニングカリキュラムです。フィジカルの強化や、柔軟性、スピード、持久力や俊敏性など、どの運動にも必要な身体能力を高め、様々な動きに対応するカリキュラムです。これに合わせて、専門的な運動知識を高める講義も一緒に行います。今までは各部活動ごとに練習をしていたかと思いますがクロストレーニングでは各種目ごとではなく全校生徒で行います！

CROSS TRAINING

様々な能力と知識を高めて、皆さんの
ブカツライフを充実したものにししょう！



クロストレーニング教室

11月11日(土) 12月2日(土)
11月19日(日) 12月17日(日)

バランスと瞬発力を向上させる トレーニングをおこないます！

当日カリキュラム

- Step1 ウォーミングアップ
- Step2 バランストレーニング
- Step3 瞬発トレーニング

講師：樋口 一馬 (MINT TOKYO)
経歴：2021年 世界リレー日本代表

開始時間 10:00 - 11:30

場 所：すば一く中山
持ち物：飲み物、運動靴
是非皆さんの参加をお待ちしております。

※菅段部活動に所属していなくても参加可能です



一般社団法人 CORD PROJECT は、「全ての子ども達に平等なスポーツ機会を」をスローガンに、子ども達の未来ある心身の成長を支援する団体です。中山町教育委員会は、クロストレーニング教室の開催にあたり、一般社団法人 CORD PROJECT と協力して教室を開催します。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【座学風景】



【実技風景】



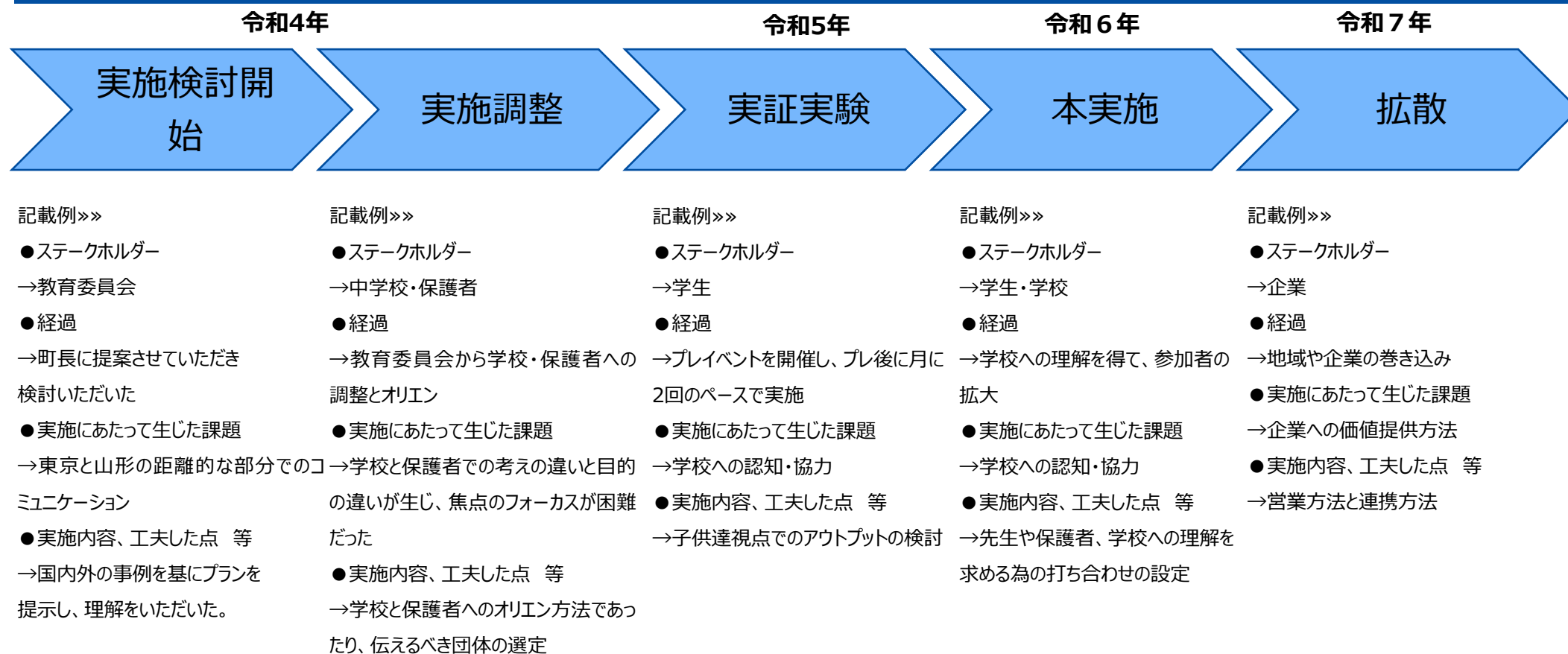
【クールダウン】



【取材対応】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

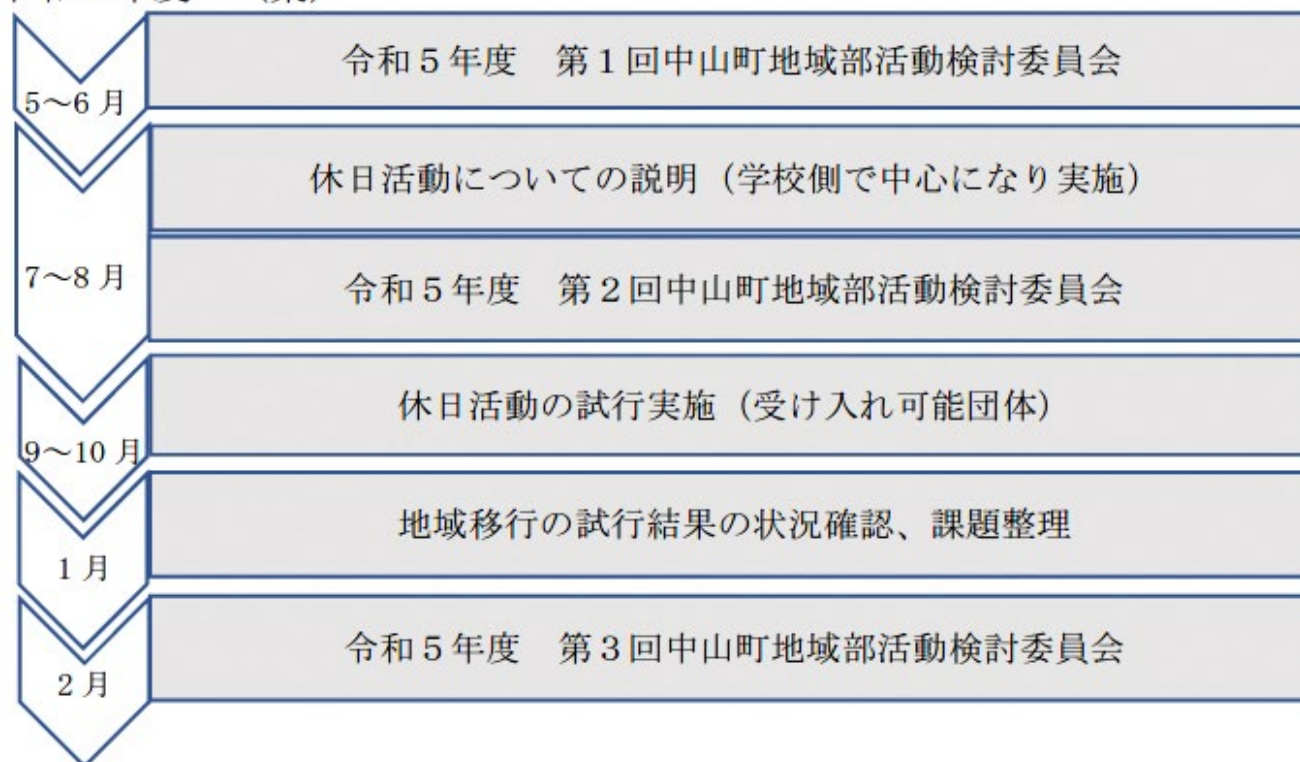


3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

中山町教育委員会 確認事項(令和4年3月)

<令和5年度> (案)



<令和6・7年度> (案)

★準備が整った団体の追加

<令和8年度>

★全部活動の休日の活動移行開始